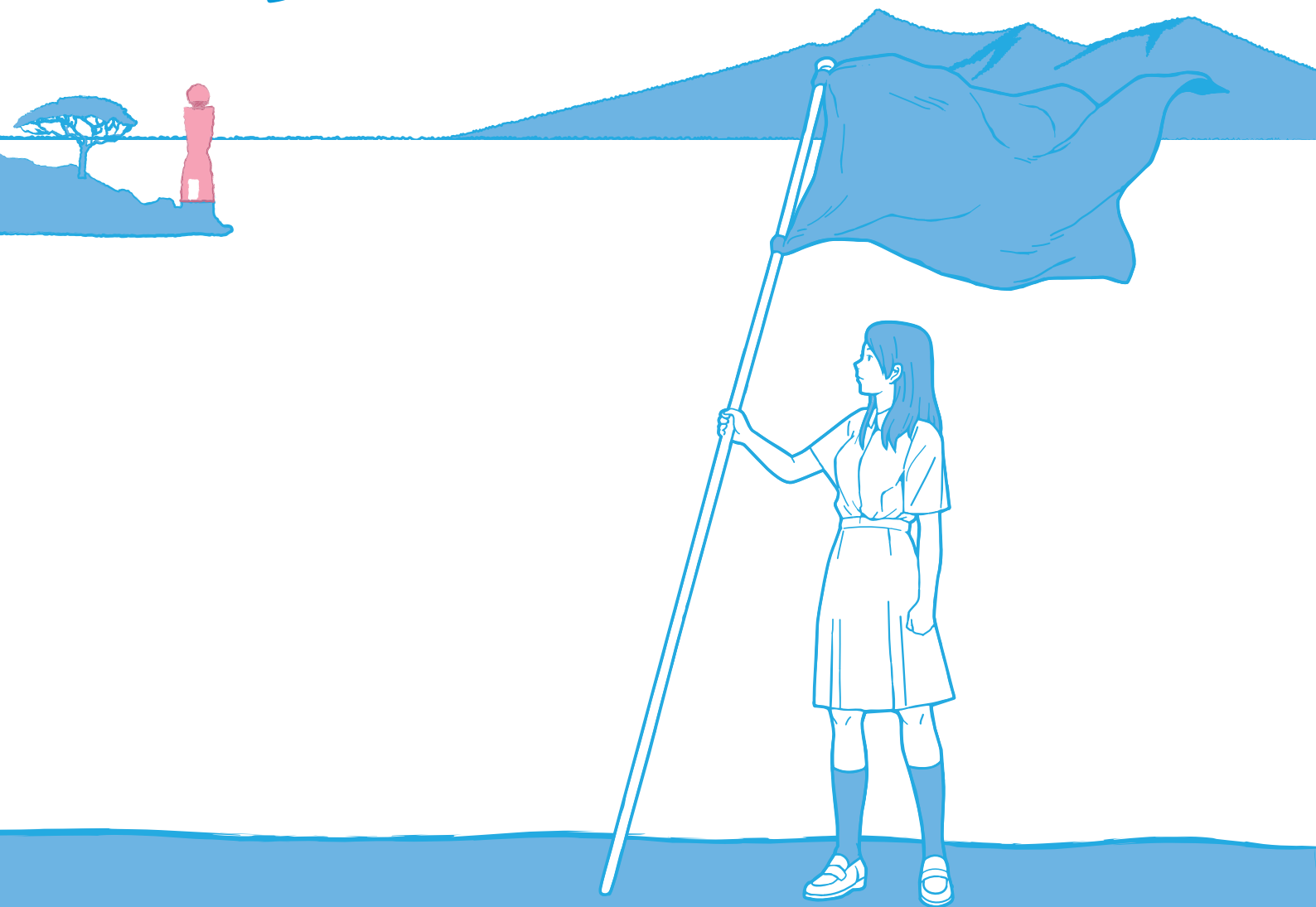


青少年赤十字防災教育プログラム

まもるいのち ひろめるぼうさい



KIDS
DESIGN
AWARD
2015



青少年赤十字 防災教育プログラム

授業で使える
防災教材

小学生用(1-3年) / 小学生用(4-6年) / 中学生用・高校生用

〈表紙〉

東日本大震災後のある町で
海を見つめる女の子に出会いました

悲しみの中から
生き抜いていこうとする
凜とした姿でした

はじめに

日本列島は、自然豊かな美しい国土ですが、地震や津波、台風、豪雨、雷、竜巻、大雪、火山噴火など、多くの自然災害に見舞われるという厳しい環境におかれています。

阪神・淡路大震災（平成 7 年）や東日本大震災（平成 23 年）など過去に発生した大規模災害では、死者の約 9 割は即死（圧死・溺死）でした。それは、いのちを救ううえで災害発生直後の応急対応の限界を示すものでありました。

東日本大震災を教訓として、日本赤十字社は、「災害からいのちを守る日本赤十字社」の確立を目指し、「防災・減災」に注力した活動を積極的に進めています。そのひとつの取り組みとして、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を制作し、これを活用した防災教育に取り組みます。

日本赤十字社は、将来起こる自然災害によってもたらされる被害や、失われるいのちを一人でも減らし、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ために、本防災教育プログラムが学校教育で活用されることを期待しております。

日本赤十字社

東日本大震災をはじめとする地震や津波、大雨や台風、火山噴火等の自然災害によって失われた多くの尊い命を前に、青少年赤十字は何をすべきなのか。

私たちの出した答えは、「防災教育」でした。

これまで、青少年赤十字が取り組んできた防災は、自分が助かったことを前提とした救急法や炊き出しなどが中心であり、“人を助けるためには、まずは自分が生きなければならないこと”を学ぶ必要がありました。

将来起こる自然災害に対して、未来を担う子どもたちは、自然災害の正しい知識をもち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動をとらなければなりません。

長年にわたって培った青少年赤十字の特徴的な手法である「気づき、考え、実行する」という、態度目標を用いた防災教育は、児童・生徒が主体的に取り組み、知識と行動力を身につけることができること、そして、他者への思いやり、優しさやいのちの大切さを学び取る力を育むことができるプログラムとなっています。

この「防災教育」は、青少年赤十字の活動の根底にある「人道」の取り組みであるとも言えます。青少年赤十字防災教育プログラムが学校教育において活用され、“未来の被災者”を救い、自然災害によって悲しい思いをする人が一人でも少なくなることを望みます。

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員会

千田 亜希	盛岡市立緑が丘小学校	教諭	上村 晴美	北海道大野農業高等学校	教諭
松本 光司	いわき市立好間第一小学校	校長	工藤 世志乃	五所川原商業高等学校	教諭
山田 不朽子	小山市立小山城南中学校	教諭	シュルパ 愛子	福島県立白河旭高等学校	教諭
厚東 政人	田布施町立田布施中学校	教頭	佐藤 知和	日本赤十字社	青少年係長

目 次

青少年赤十字防災教育プログラム

まもるいのち ひろめるぼうさい

小学生用（１－３年）／小学生用（４－６年）／中学生用・高校生用

はじめに

指導案・ワークシートの使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

●小学生用（１－３年）

■地震災害・・ 6

ワークシート1「地震から身を守ろう」学校で地震がおきたとき、あぶないものは？・・・・・・・・・・ 7

ワークシート2「緊急地震速報で身を守ろう」緊急地震速報がなったらどうする？・・・・・・・・・・ 8

ワークシート1、2 回答例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

■津波災害・・ 10

ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」津波からいのちをまもるためにどうする？・・ 11

ワークシート3 回答例・・ 12

■風水害・・ 13

台風・豪雨

積乱雲／雷・・ 14

局地的大雨／竜巻・・ 15

ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」

天気よほうで、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？・・・・・・・・・・ 16

ワークシート5「積乱雲を知ろう」「大気の状態が不安定」なとき、あぶないことは？・・・・・・・・・・ 17

ワークシート4、5 回答例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

■雪害・・ 19

ワークシート6 回答例

ワークシート6「大雪から身を守ろう」雪がたくさんふったとき、あぶないところは？・・・・・・・・ 20

■火山災害・・ 21

発展：災害から未来へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

●小学生用（４－６年）

■地震災害・・ 24

ワークシート1「地震から身を守ろう」学校で地震が起きた時、あぶないものは？・・・・・・・・・・ 25

ワークシート2「緊急地震速報を活用して身を守ろう」緊急地震速報が鳴ったらどうする？・・ 26

ワークシート1、2 回答例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

■津波災害・・ 28

ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」津波から身を守るポイントを復習しよう！・・ 29

ワークシート3 回答例・・ 30

■風水害・・ 31

台風・豪雨

積乱雲／雷・・ 32

局地的大雨／竜巻・・ 33

ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」

天気予報で、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？・・・・・・・・・・ 34

ワークシート5「積乱雲を知ろう」「大気の状態が不安定」な時の危険は何がある？・・・・・・・・・・ 35

ワークシート4、5 回答例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

■雪害・・ 37

ワークシート6 回答例

ワークシート6「大雪を知ろう／大雪から身を守ろう」雪がたくさんふった時、あぶないところは？・・ 38

■火山災害	39
■災害に備える	40
ワークシート7「災害に備える」 災害に備えて、どんな準備をしていますか？	41
ワークシート7 回答例	42
発展：災害の経験から未来へ	43
ワークシート8「災害の経験から未来へ」いのちをつなぐために	44
●中学生用・高校生用	
■地震災害	46
ワークシート1「地震から身を守ろう」 地震が起きた時、考えられる危険は？	47
ワークシート2「緊急地震速報を活用して身を守ろう」 緊急地震速報が鳴ったら？	48
ワークシート1、2 回答例	49
■津波災害	50
ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」 津波からいのちを守るポイントは？	51
ワークシート3 回答例	52
■風水害	53
台風・豪雨	
積乱雲／雷	54
局地的大雨／竜巻	55
ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」	
天気予報で、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？	56
ワークシート5「積乱雲を知ろう」「大気の状態が不安定」な時の危険は？	57
ワークシート4、5 回答例	58
■雪害	59
ワークシート6 回答例	
ワークシート6「大雪を知ろう／大雪から身を守ろう」大雪から身を守るにはどうしたらよい？	60
■火山災害	61
■災害に備える	62
ワークシート7「災害に備える」 災害に備えて、どんな準備をしていますか？	63
ワークシート7 回答例	64
発展：災害の経験から未来へ	65
ワークシート8「災害の経験から未来へ」いのちをつなぐために	66
●授業で使えるプログラム集	
I. 授業で使えるグループワーク素材	
1. あなたの大切なもの	68
2. みんなでわけよう	72
3. いのちを守るための気づき	77
4. 災害時シミュレーション	79
5. 防災コミュニケーションワークショップ（BCW）	81
6. 自分だったらどうする	91
II. 授業で使える作文素材	
ありがとう	94
III. 授業で使える写真素材	
あなたができること	98
付属 DVD 収録メニュー・CD-R 収録データ一覧	100
協力者一覧	102

指導案・ワークシートの使い方

本プログラムは、児童・生徒が防災について、意欲的に学習に取り組めるように、付属の DVD（映像）と連動した指導案とワークシートで構成されています。

○ 指導案（例）

学習時間



※対応する DVD（映像）のチャプターを表示

DVD（映像）はチャプターごとに選択可能

活用できる教科・領域

学習するプログラムの趣旨とねらい

DVD（映像）を活用した授業を想定した展開

○ ワークシート（例）



児童・生徒が興味、関心をもって取り組めるよう、発達段階に応じた内容（イラスト・画像）で構成

付属の CD - R には、
授業で使える
防災教育に関する
教材（素材）を収録

小学生用

(1—3年)

地震災害

社会

生活

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

児童に、日常生活の様々な場面で地震から身を守る方法を学ばせることで、地震の時に危ないものに気づき、常にその対処法を考え、「自分のいのちは自分で守る」行動をとることができるようにする。

2. ねらい

地震が発生した時にどんなことが起きるかをイメージさせる。その上で、普段から地震の時に危険なものを認識させ、様々な場面で地震から身を守る方法を知り、自分のいのちは自分で守るため自ら危険を回避する行動ができるようになる。

3. 展開（45分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	①「災害」とは何か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●「災害」について知っているか問いかけ、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②地震が起きるとどうなるのか考え、どのようにして身を守るかについて学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDのA-2、A-3を見せる。 【地震の特徴】 <ul style="list-style-type: none"> ・地震はある日突然やってくる。 【地震の時に気をつけなければいけないもの】 <ul style="list-style-type: none"> ・たおれてくるもの ・おちてくるもの ・うごいてくるもの 【家の中での対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルの下に隠れ、テーブルの脚をしっかりとにぎる。テーブルがなければ、クッションなどをかぶって頭を守る。なにもない時は、柱のそばで、体を小さくしてうずくまり、両手で頭を守る。 【道を歩いている時の対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀、電信柱など、危険なものから離れる。 ・電車やバスでは、指示にしたがって落ち着いて行動する。 【教室での対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐり、机の脚をしっかりとにぎる。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート1を配付する。
【ワークシート1】学校で地震がおきたとき、あぶないものは？		
	③教室で地震が起きた時の危険を知り、身の守り方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼「たおれてくるもの」「おちてくるもの」「うごいてくるもの」のそれぞれに注目させる。
	学校内で、地震が起きた場合の危険なものと対処法を考えさせる。	
	どんな危険があるか、ワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼児童の発表に応じて、「教室以外のあぶない場所は？」（回答例：体育館、音楽室、理科室など）など、追加の質問を行う。
	④緊急地震速報が鳴ることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ▼「緊急地震速報」を知っているか問いかけ、知っている児童に手を挙げさせる。 ●DVDのA-4を見せる。 【緊急地震速報とは】 <ul style="list-style-type: none"> ・強い揺れが来そうな時に知らせる。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート2を配付する。
	緊急地震速報がどんな時に鳴るのか学び、冷静に対応できるようにする。	
【ワークシート2】緊急地震速報がなったらどうする？		
	緊急地震速報が鳴った時に、とるべき行動をワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼危険から身を守る方法を思い出させる。
まとめ (3分)	⑤危険なものを早く見つけて、すぐに離れることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼授業でふれなかったシチュエーション（出かけている時など）でも、同じように、危険をいち早く見つけて離れることが大切であることを補足する。
	揺れを感じたり、緊急地震速報を聞いて、地震の発生を知ったら、最優先で「あぶないもの」から離れることが大事であることを理解する。	

ねん

くみ

ばん

なまえ



学校で地震がおきたとき、 あぶないものは？

学校にいたるときに地震がおきました。学校には、ぐらぐらゆれるとあぶないものがたくさんあります。

下のイラストの中で、あぶないものに○をつけましょう。



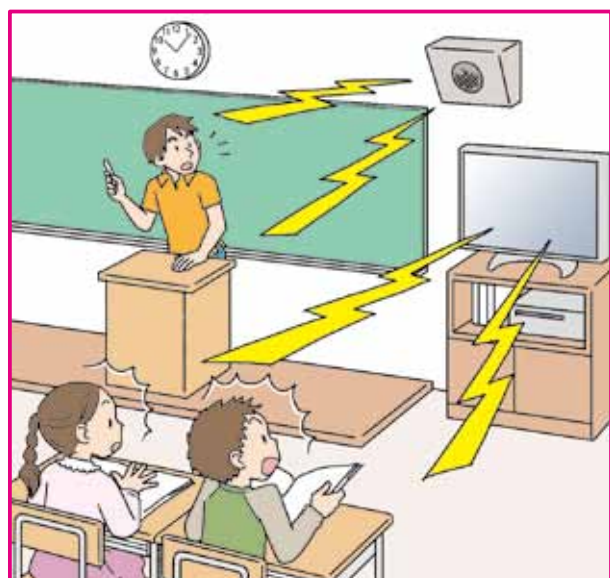
ねん くみ ばん なまえ

緊急地震速報がなったら どうする？

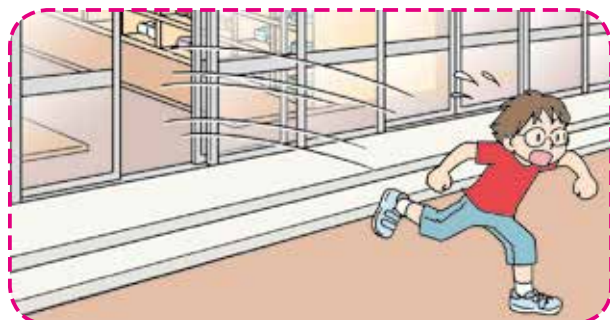
学校や家いえにいるときに緊急地震速報きんきゅうじしんそくほうがなりました。なにをしたらよいのか、考えてみましょう。

緊急地震速報きんきゅうじしんそくほうがなったときに、じぶんの身を守るために正しいと思うものに○をつけましょう。

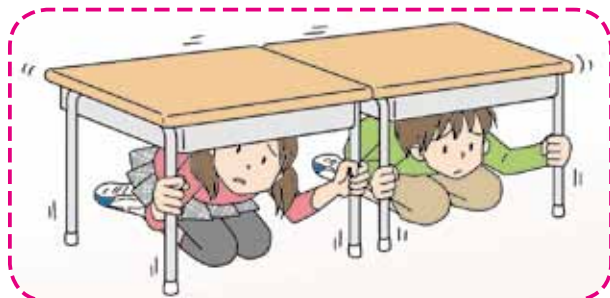
学校がっこうにいるとき



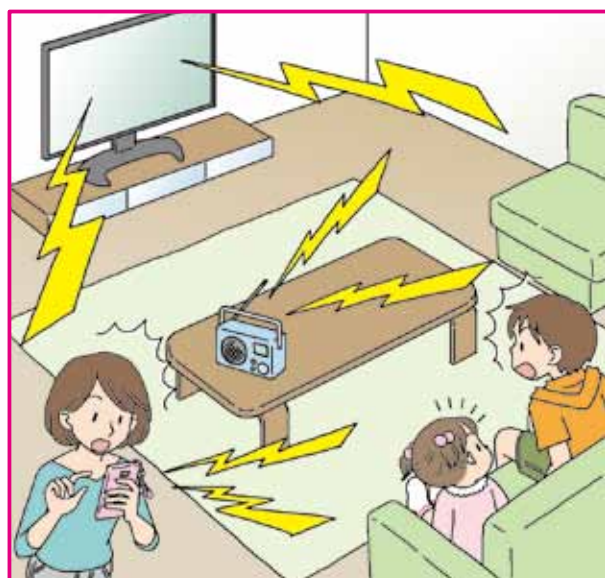
() 走はしって外そとにとびだす



() つくえしたの下にもぐってつくえのあしをにぎる



家いえにいるとき



() タンスがたおれないようにおさえる



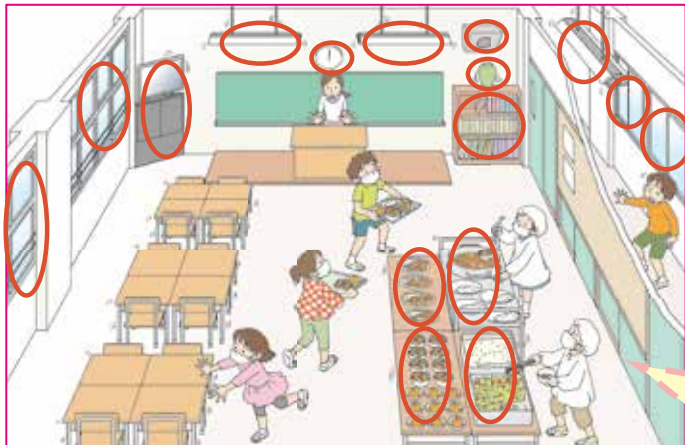
() テーブルしたの下にかくれてテーブルのあしをにぎる



ワークシート回答例

ワークシート1「地震から身を守ろう」

下のイラストの中で、あぶないものに○をつけましょう。



例：たおれてくるもの……棚、テレビ、テレビ台

おちてくるもの……電灯、花びん、テレビ、窓ガラス、時計

うごいてくるもの……給食

指導のポイント

教室の中の、「たおれてくるもの」「おちてくるもの」「うごいてくるもの」に注目させましょう。

電灯や、窓のガラスが割れて落ちてくることも想定されます。

児童の発表のあとで、「あぶないものから離れる」ことが大切であることを伝えるようにしましょう。

ワークシート2「緊急地震速報で身を守ろう」

いのか、考えてみましょう。

緊急地震速報がなったときに、じぶんの身を守るために正しいと思うものに○をつけましょう。

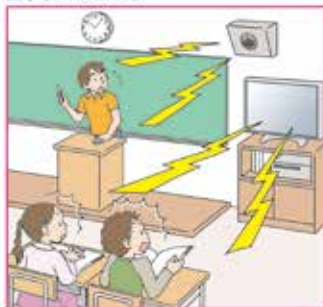
指導のポイント

地震の時に、走って外にとびだしたり、家具をおさえたりするのはとても危険だということを伝えてください。

事前に、児童や家族が所持している可能性のある携帯電話やスマートフォンでの緊急地震速報のしくみや設定方法を調べておくといでしょう。

また、学校で活用できる緊急地震速報の鳴り方などについて確認しておき、児童の発表に加えて伝えるようにするとよいでしょう。

■学校にいるとき



() 走って外にとびだす



(○) つくえの下にもぐってつくえのあしをにぎる



■家にいるとき



() タンスがたおれないようにおさえる



(○) テーブルの下にかくれてテーブルのあしをにぎる



津波災害

社会

生活

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

大きな地震のあとには津波が起きることがある。その時どうすればよいか普段から考えておくことで、「自分のいのちは自分で守る」方法を考えさせる。

2. ねらい

津波災害から自分の身を守るポイントを示して、いざという時のために普段から意識しておくことが必要であることに気づかせる。また、日本は海に囲まれているので、海の近いところに住んでいても、海の近くに行く機会があるかもしれないことを考えさせる。

3. 展開（45分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	①「災害」とは何か考える。	●「災害」について知っているか問いかけ、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②津波はどのようなものか学び、津波が来そうな時、どのようにして身を守るかについて学習する。	●DVDのA-5、A-6を見せる。 【津波のしくみ】 ・海の底で地震が起きると、津波が発生する。 ・津波のスピードはとても速い。 【津波からいのちを守るために大切なこと】 ・すぐにげる ・たかいところへげる ・もどらない 【日頃の備え】 ・日頃から、どこに逃げるか決めておく。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート3を配付する。
【ワークシート3】津波からいのちを守るためにどうする？		
(35分)	③津波から身を守るために必要な知識を確認する。 津波から身を守るためには適切な判断と日頃の備えが重要であることを理解する。 津波から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	▼津波が来そうな時に絶対に守らなければならないことを整理する。 ▼児童によるワークシートの回答を精査し、正しい知識が身についているかを確認する。知識に誤りがある場合には、それを指摘し、児童が津波への対処法を理解できるように努める。
	④日頃から津波に備えておき、実際に地震が起きたら、津波のことを意識してすぐに行動することを確認する。 地震が起きたら、まず津波の可能性を考え、津波を甘く見ずに避難することが重要であることを理解する。	▼実際に、自分の町に津波が来たことを想定して、具体的な避難場所などを家族で話し合っておくように伝える。
まとめ (3分)		

ねん

くみ

ばん

なまえ



津波^{つ なみ}からいのちをまもるため にどうする？

ただ^{ただ}正しい^{おも}と思う^{ほう}方に○をつけましょう。

(1) 海のちかくで、大きな地震^{おお じ しん}のあとにおこるのはなんですか？

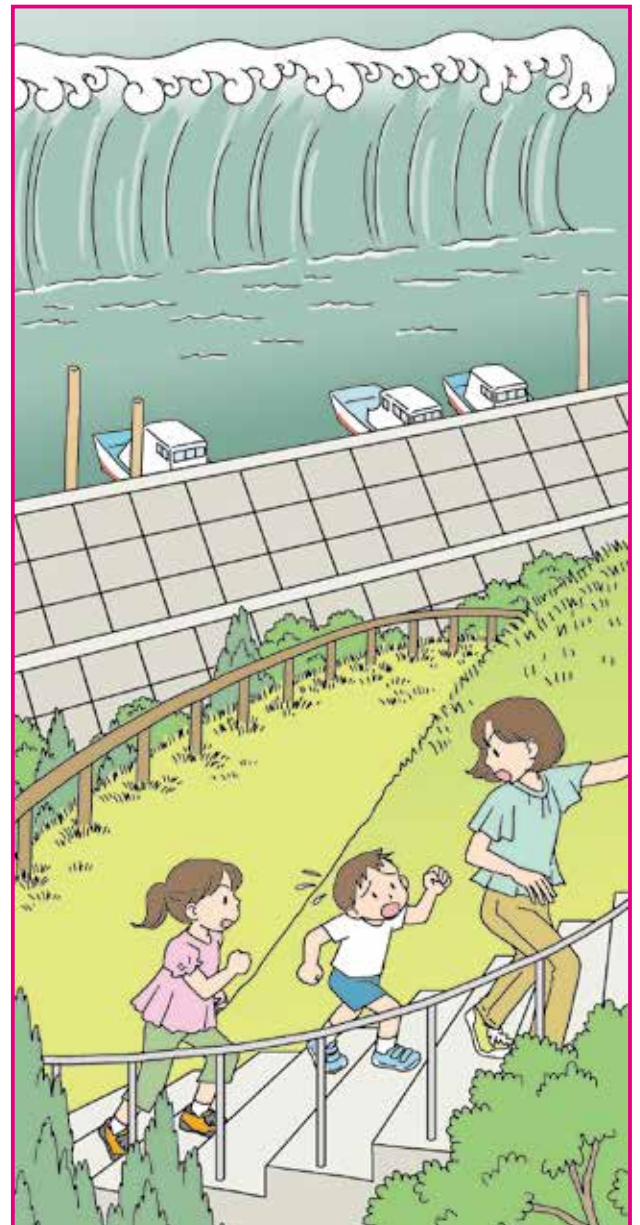
- () 津波^{つ なみ}
- () たつまき

(2) 津波^{つ なみ}がきそうなときには
どうすればよいですか？

- () 海^{うみ}のようすを見^みにいく
- () なるべくたかいところに
にげる

(3) ひなんばしょについたあと
しばらくしたら、どうしたら
よいですか？

- () 津波^{つ なみ}がほんとうにきたのか
見^みにいく
- () 安全^{あん ぜん}だとわかるまで
もどらない



ワークシート回答例

ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」

正しいと思う方に○をつけましょう。

(1) 海のちかくで、大きな地震のあとにおこるのはなんですか？

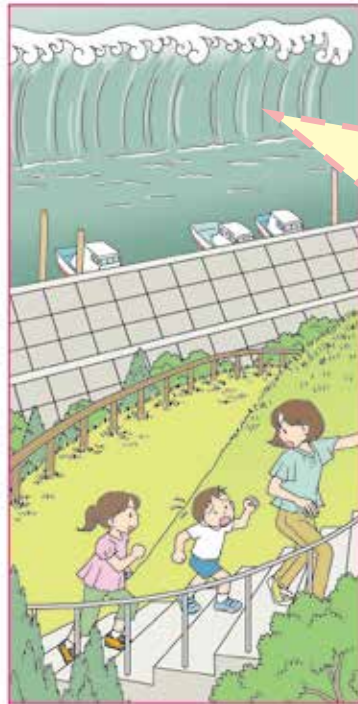
- (☒) 津波
() たつまき

(2) 津波がきそうなときには
どうすればよいですか？

- () 海のようにすを見にいく
(☒) なるべく高いところに
 にげる

(3) ひなんばしょについたあと
しばらくしたら、どうしたら
よいですか？

- () 津波がほんとうにきたのか
 見にいく
(☒) 安全だとわかるまで
 もどらない

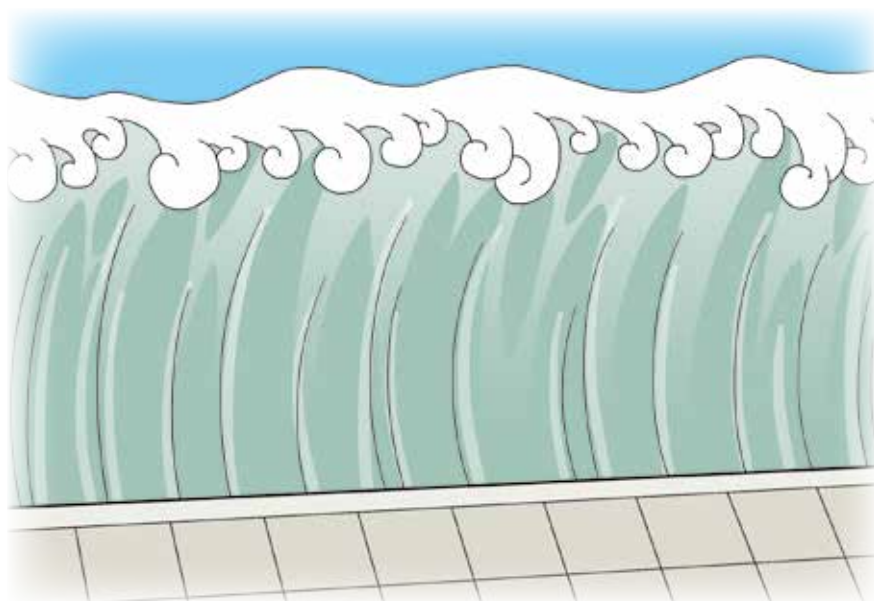


指導のポイント

ワークシートでは、津波の危険から身を守るための基本的な方法を確認します。

「海と逆方向に逃げるといより、高台に逃げなくてはならない」「避難してからでもすぐに安心せず、津波の危険が完全に去るまで戻らない」といった基本的なことを復習しましょう。

児童と答え合わせするだけでなく、津波から身を守る方法を理解できるよう、説明や話し合いの時間を確保するようにしましょう。



風水害

社会

生活

体育

総合学習

特別活動

このプログラムの使い方

風水害のプログラム（p13～18）は、すべてつなげて1回分の授業として行うか、もしくは「台風・豪雨」「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のいずれかを組み合わせた授業として行うことができます。p16のワークシート4は「台風・豪雨」の授業の時に使用してください。p17のワークシート5は「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のどの授業で使用してもかまいません。

台風・豪雨（15分）



A-7 たいふう・ごううをしろう／たいふう・ごううからみをまもろう

1. プログラムの趣旨

毎年、夏から秋にかけて、台風が日本を通り過ぎることで、たくさんの雨が降り、強い風が吹き、各地に大きな被害（洪水・高潮・土砂災害）をもたらす。ここでは、台風はあらかじめ天気予報によって進路を予測できるので、こまめに情報をチェックすることが重要であることを学習する。

2. ねらい

台風が近づいてくるとどんな状態になるか考えさせて、台風情報を活用することで自分の身を守る方法を学ぶ。

3. 展開（15分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①台風・豪雨について学ぶ。 台風がどのようなしくみで起こるのかを知り、台風からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVDのA-7を見せる。 【台風への対処】 ・基本的には家から出ない。 ・家が川や海、崖の近くにある場合は、大人の指示にしたがってすみやかに避難する。 ● 「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート4を配付する。
展開 (9分)	②台風の危険を知り、身の守り方を理解する。 台風が近づいてきた時のシチュエーションごとの具体的な対処法をワークシートに記入し、発表する。	▼児童の発言に応じて、地域の実情も加味しながら、台風時の対策を考えさせる。
まとめ (1分)	③台風が近づいている時には、天気予報をチェックし、適切に対処することを確認する。	▼台風接近時は子どもだけでの外出を控え、適切に対処することを伝える。地域の避難場所や、防災情報の確認のしかたなどを伝える。

積乱雲 (6分)



A-8 せきらんうんをしろう

1. プログラムの趣旨

「大気の状態が不安定」と天気予報が伝えられた場合、積乱雲が発生し、それに伴って様々な災害が起きやすい。ここでは「雷」「局地的大雨」「竜巻」を引き起こす積乱雲について学ぶ。

2. ねらい

積乱雲がきっかけとなって、様々な災害が起きることを学ぶ。

3. 展開 (6分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (4分)	①積乱雲について学ぶ。	● DVD の A-8 を見せる。 【積乱雲の特徴】 ・急に発生して、雷や大雨、竜巻といった災害を引き起こす。 ・「大気の状態が不安定」な時に発生しやすい。
	②積乱雲が見えたら、どのようにすればよいか考える。	▼積乱雲を見たことがあるかどうか児童に問いかけ、見たことがある児童に挙手させる。 ▼積乱雲の発達によって起こりうることとして「雷・局地的大雨・竜巻」をあげ、それぞれを簡単に説明する。キーワードである「大気の状態が不安定」を板書する。
まとめ (2分)	③大気の状態が不安定な時には、できるだけ外出しないことを確認する。	▼天気予報に注意するなど、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

雷 (8分)



A-9 かみなりからみをまもろう

1. プログラムの趣旨

毎年日本全国で落雷による事故が起きている。雷から身を守るにはどうしたらよいのか。ここでは雷から身を守る方法について学ぶ。

2. ねらい

- ①雷が発生する前には大気の状態が不安定になり、急速に発達する積乱雲になりやすいことを学習する。
- ②雷が鳴ったら危ない場所を認識することで、安全な場所で身を守ることを学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (6分)	①雷について学ぶ。	● DVD の A-9 を見せる。
	②雷から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	【雷への対処】 ・高いものの近くに行かない。 ・建物や自動車の中に避難する。 ・建物がまわりにはない場合には、姿勢をなるべく低くして通り過ぎるのを待つ。
まとめ (2分)	③外出中に雷の音が聞こえたら、すぐに避難することを確認する。	▼雷鳴に気づいたら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

局地的大雨 (8分)



A-10 きょくちてきおおあめ
からみをまもろう

1. プログラムの趣旨

積乱雲が原因で発生する局地的大雨は、短時間で様々な災害を引き起こす。ここでは局地的大雨から身を守る方法を考える。

2. ねらい

局地的大雨は積乱雲がもたらす現象で、短時間に大雨が降って、様々な災害を引き起こすことを学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (6分)	①局地的大雨について学ぶ。	● DVD の A-10 を見せる。
	②局地的大雨から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	【局地的大雨への対処】 ・川や用水路からはすぐに離れる。 ・街の中で大雨に遭ったら、建物の中に避難する。
まとめ (2分)	③外出中に大雨に遭ったら、すぐに避難することを確認する。	▼局地的大雨の前ぶれが分かったら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

竜巻 (8分)



A-11 たつまきからみをまも
ろう

1. プログラムの趣旨

積乱雲が近づいて来たら、竜巻にも気をつけなければならない。ここでは竜巻の危険性や、竜巻から身を守る方法を考える。

2. ねらい

竜巻とはどのような現象であるかを理解し、竜巻から身を守る方法を学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (6分)	①竜巻について学ぶ。	● DVD の A-11 を見せる。
	②竜巻から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	【竜巻への対処】 ・竜巻の前ぶれを見つけたら、急いでビルなどのしっかりした建物の中に避難する。 ・建物の中では窓から離れ、机の下などに入って頭と首を守る。
まとめ (2分)	③竜巻の前ぶれを見つけたら、すぐに避難することを確認する。	▼竜巻の前ぶれが分かったら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

ねん

くみ

ばん

なまえ

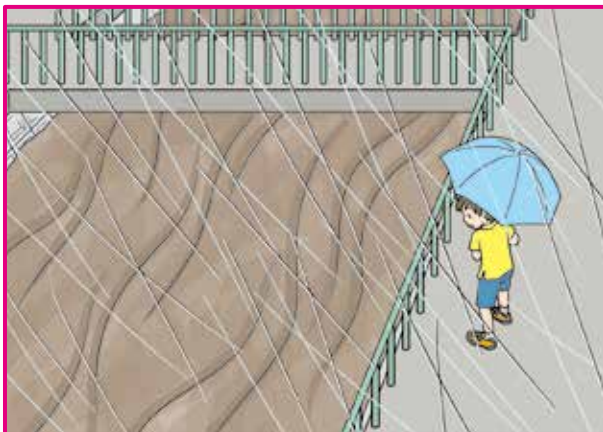


天気よほうで、台風が近づいて いることを知ったら、 どうしたらよい？

テレビの天気よほうで台風が近づいていることがつたえられています。
どんなことが考えられますか？

ただ正しいと思う方に○をつけましょう。

●川の水はどうなる？



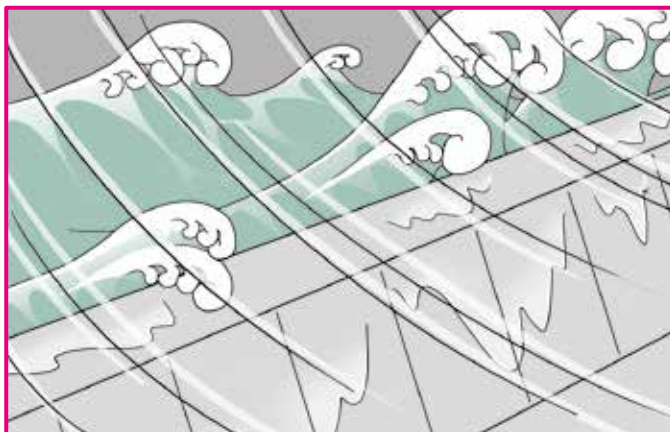
- () 水のりょうがふえて、あふれる
- () 水のりょうがへる

●山やがけではなにがおきる？



- () ふんかする
- () くずれる

●海はどうなる？



- () 海のたかさや波がたかくなる
- () しずかになる

ねん くみ ばん なまえ

「大気の状態が不安定」なとき、 あぶないことは？

テレビの天気よほうで、「大気の状態が不安定」といっていましたが、
まえから友だちとやくそくしていたハイキングに出かけてしまいま
した。どんなきけんがあるのでしょうか？



ハイキング先で身を守るために、正しいと思う方に○をつけましょう。

●雷がなっているとき



- () 木の下ににげる
- () 自動車やたてものの
中に入る

●大雨がふってきたとき



- () たてものの外ににげる
- () 川や用水路からはなれ
る

●竜巻が近づいてきたとき



- () たてものの中のまど
ぎわににげる
- () たてものの中のつく
えの下ににげる

ワークシート回答例

ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」

正しいと思う方に○をつけましょう。

●川の水はどうなる？



- (☒) 水のりょうがふえて、あふれる
() 水のりょうがへる

●山やがけではなにがおきる？



- () ふんかする
(☒) くずれる

●海はどうなる？



- (☒) 海の高さや波がたかくなる
() しずかになる

指導のポイント

DVD で学んだ知識の復習のほか、児童たちが体験した過去の台風の事例などから、台風の危険を挙げさせましょう。回答させながら、台風の特徴（強い風が吹く、短い間に大量の雨が降る、など）を板書して、想像力を補うのもよいでしょう。

台風への対策の基本は「外出しないこと」ですが、家の中には危険な場合には、避難が必要です。学校や町が海や川の近くにある、山間にあるなど、地域の実情に合わせて、避難勧告の基準や避難場所をあらかじめ確認しておきましょう。

ワークシート5「積乱雲を知ろう」

指導のポイント

「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたら、積乱雲が発達する可能性があることを、まずは印象づけましょう。積乱雲が発達すると「雷」「局地的大雨」「竜巻」などのおそれがあります。これらへの最も有効な対処法は「外出しないこと」ですが、外出中に遭遇してしまった場合も考慮して、対処法を考えておきましょう。

また、積乱雲は多くの場合短時間に急激に発達するため、例えば朝には晴れていても、昼や夕方に局地的大雨に遭遇する可能性などがあることを補足しておきましょう。



ハイキング先で身を守るために、正しいと思う方に○をつけましょう。

●雷がなっているとき



- () 木の下ににげる
(☒) 自動車やたてものの
中に入る

●大雨がふってきたとき



- () たてものの外ににげる
(☒) 川や用水路からはなれ
る

●竜巻が近づいてきたとき



- () たてものの中のまど
ぎわににげる
(☒) たてものの中のつく
えの下ににげる

雪害

社会

生活

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

日本の半分以上の地域に関係する災害、雪害。ここでは雪害から身を守るためにどのようにすればよいかを学ぶ。

2. ねらい

雪は楽しく遊ぶことができる反面、たくさん降ると生活に困ること、また、いのちの危険に関わる事故につながることを学ぶ。

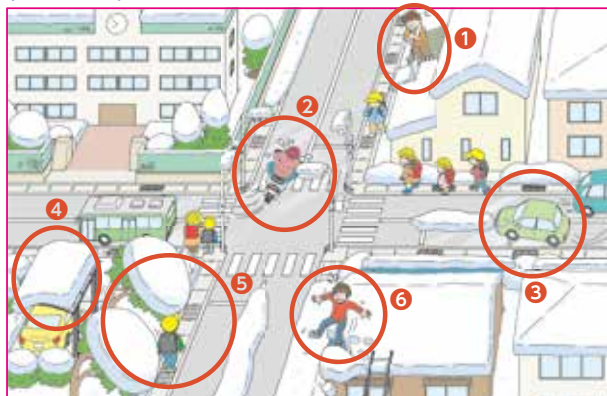
3. 展開（15分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①大雪と雪害について学ぶ。 大雪による災害、「雪害」について学び、どのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-12 を見せる。 【大雪による災害の例】 ・雪の重さで建物が倒れる。 ・雪の積もった斜面でなだれに巻き込まれる。 ・屋根の上に積もった雪が落ちてくる。 【危険を回避するために】 ・大雪のおそれがある時は外出しない。 ・雪の積もった斜面などには近づかない。 ● 「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート 6 を配付する。
展開 (7分)	②雪害から身を守るために必要な行動について考える。 雪害から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	【ワークシート 6】雪がたくさんふったとき、あぶないところは？ ▼児童によるワークシートの回答について話し合い、正しい知識が身についているかを確認する。
まとめ (3分)	③大雪が降ったら、雪害を想定して行動することを確認する。 大雪に対しては、雪害に備えつつ対処することが重要であることを理解する。	▼大雪が降ったら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

ワークシート回答例

ワークシート 6 「大雪から身を守ろう」

下のイラストの中で、あぶないところに○をつけましょう。



- ① 雪かきの雪が下を通行している人に落ちてくる
- ② オートバイがスリップする
- ③ 車のブレーキが効かず、制動距離が長くなる
- ④ 片足屋根のカーポートが倒れてくる
- ⑤ 積もった雪が落ちてくる
- ⑥ 雪かき中に転落する

指導のポイント

雪の多く降る地域では、過去の事例を参考に危険のある場所を挙げ、積雪の際にはどの道を通ったらよいか、吹雪の時にはどこに避難するのがよいかなど、具体的な例を挙げながら授業を展開していくのがよいでしょう。

雪がめったに積もらない地域では、雪への対処の知識が乏しい可能性があります。DVD で学んだ基本的な事項をあらためて確認することを目標に、授業を展開しましょう。

ねん

くみ

ばん

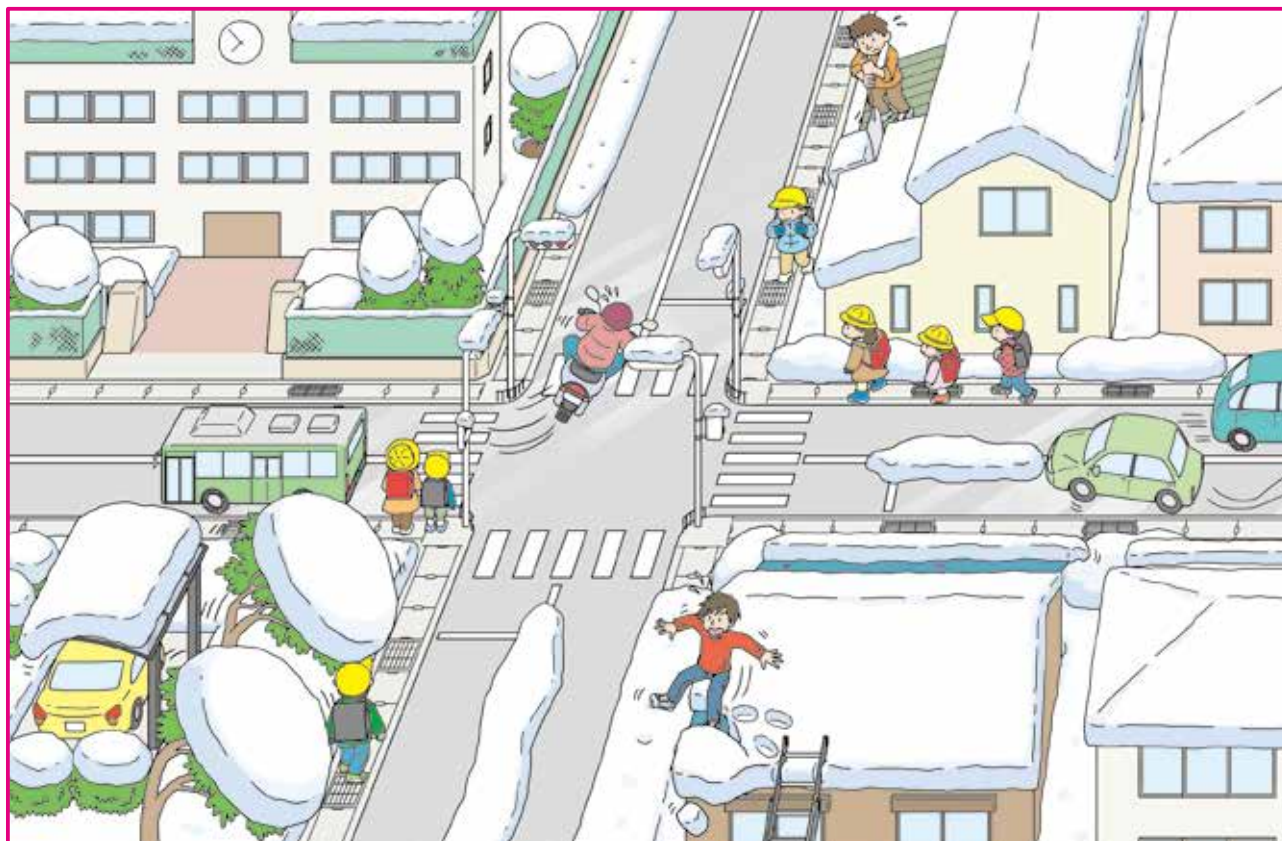
なまえ



雪がたくさんふったとき、 あぶないところは？

ゆき 雪がふったときに^き気をつけること、^{ゆき}雪でおこるあぶないことを^{かんが}考えて
みましょう。

^{した}下のイラストの^{なか}中で、あぶないところに○をつけましょう。



火山災害

社会

生活

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

火山とは何だろう。自分の地域の近くにある山って火山なの？ 火山のない地域の小学校も多いと思われるが、ここでは火山の災害にはどんなものがあるか学ぶ。

2. ねらい

①火山と自分の地域のまわりにある山とは何が違うのかを学ぶ。

②火山災害の危険を認識することで、火山から身を守る方法を考える。

3. 展開（10分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (7分)	①火山災害にはどのようなものがあるのか理解する。	● DVD の A-13 を見せる。 【火山災害の特徴】 ・火山が噴火すると、溶岩、高温のガスなどで大きな被害をもたらす。 ・気象庁から、噴火警報が出たらすみやかにそれに従う。 ・噴火していなくても、有毒なガスが噴き出していることなどもあるので注意する。
	②火山災害が起こったらどうするか考える。	▼自分の住んでいる地域の近くで活動する可能性のある火山があるか、確認してみる。ある場合は、それが噴火した場合どうなるかも考えてみる。
まとめ (3分)	③警報が出たらすぐに避難する。普段から危険な場所には近づかないことを確認する。	▼火山の近くの学校では、火山に対する慎重な行動が必要であることを理解する。



災害から未来へ

DVD の C-1 「さいがいからみらいへ」 を児童に見せて、感じたこと、考えたことを自由に発表させましょう。

また、被災地の先生からのメッセージを読み、先生自身も災害から「いのちを守る」 ことについて、今一度考えてみてください。

被災された先生からのメッセージ

2011 年 3 月 11 日、大きな揺れと同時に、子どもたちの悲鳴や泣き声が聞こえました。放送機器も使用できなくなったので、一人一人の先生方の判断で子どもたちの命を必死に守っていました。大きな声で誘導する先生、余震から身を守るために子どもたちに覆い被さる先生……今でもその姿が目に残ります。

被災し、体育館や借り上げ住宅、仮設住宅で避難生活を送る子どもたちは、生活や未来に不安を持ちながらも、学校での友だちとの過ごす時間の中で、命を輝かせていました。

私たちは、子どもたちが災害をおそれるのではなく、災害と向き合う方法を知り、未来に希望や夢を持って進めるよう

にとこの教材を作成しました。

がれきの中を歩いていた子どもたちは、今、たくましく成長し、きっと地域の復興の大きな力となっていることでしょう。

学習を終えた子どもたちに、災害と向き合うということは、災害から自分のいのちを守ること、災害で困っている人を助けることであることを伝えてください。そしてふるさとで育ち生きていくことに夢と希望を持たせてください。

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員

いわき市立好間第一小学校

校長 松本 光司



©日本赤十字社

▲津波によって陸地まで流されてきた船。



©日本赤十字社

▲津波によって被害を受けた岩手県山田町の様子。



©日本赤十字社

▲がれきの中を歩く岩手県山田町の子どもたち。

小学生用

(4—6年)

地震災害

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

地震のメカニズムを学ぶことは、地震についての理解を深め、地震から身を守る方法を学ぶ上で、非常に有効である。DVD やワークシート教材を通して地震のメカニズムを知り、日常生活の様々な場面で地震から身を守る方法を身に付けるようにする。また、地震の時に危ないものに気づき、自分だけでなく家族や他の人々の安全にも気配りできるようにする。

2. ねらい

- ① 地震が起こるメカニズムを学ぶことで、地震から身を守る方法を知り、地震災害時に自分のいのちを自分で守ることができるよう、危険を回避する行動ができるようになる。
- ② 緊急地震速報のしくみを学習することで、日常的な訓練等に加えて、地震災害時の安全な行動に生かすことができるようにする。
- ③ 自分の安全だけでなく、家族や友だち、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようになる。

3. 展開 (45分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●「災害」について知っているか、どんなことが話し合い、DVD の A-0、A-1 を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②地震が起こるメカニズムを学び、地震が起こった時、どのようにして身を守るかについて学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVD の A-2、A-3 を見せる。 ▼A-3 で「考えてみよう！」の画面が出たら、DVD を一時停止し、児童に問いかけ、話し合う。
	【考えてみよう！】地震の時に気をつけるものは？	
		<ul style="list-style-type: none"> ●児童の発言を板書し、答えは伝えずに DVD を再開する。 【地震の時に気をつけなければいけないもの】 <ul style="list-style-type: none"> ・倒れてくるもの ・落ちてくるもの ・移動してくるもの 【家の中での対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルの下に隠れ、テーブルの脚をしっかりとにぎる。テーブルがなければ、クッションなどをかぶって頭を守る。 【道を歩いている時の対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀、電信柱など、危険なものから離れる。 ・電車やバスでは、指示にしたがって落ち着いて行動する。 【教室での対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐり、机の脚をしっかりとにぎる。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート 1 を配付する。
	【ワークシート 1】学校で地震が起きた時、あぶないものは？	
	③教室で地震が起きた時の危険を知り、身の守り方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「移動してくるもの」のそれぞれに注目させる。
	どんな危険があるか、危険から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼児童の発言に応じて、「もし近くに机がなかったら（回答例：体を小さくしてうずくまり頭を両手でしっかり守る）」「地震で揺れている時に外へ逃げてもよいだろうか（回答例：古い建物の中にいる場合は、いち早く外に出ることも必要）」など、追加の質問を行う。
	④緊急地震速報のしくみを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼「緊急地震速報」を知っているか問いかけ、知っている児童に手を挙げさせる。 ●DVD の A-4 を見せる。 【緊急地震速報とは】 <ul style="list-style-type: none"> ・震度 5 弱以上の強い揺れが予測される場合に、震度 4 以上が予想される地域に対して出される。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート 2 を配付する。
	【ワークシート 2】緊急地震速報が鳴ったらどうする？	
	緊急地震速報が鳴った時に、とるべき行動をワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼まわりへの声かけが重要なことを伝える。 ▼危険から身を守る方法を思い出させる。
まとめ (5分)	⑤危険なものを早く見つけて、すぐに離れることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼授業でふれなかったシチュエーション（出かけている時など）でも、同じように、危険をいち早く見つけて離れることが大切であることを補足する。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

年 組 番 名前



学校で地震が起きた時、 あぶないものは？

学校にいる時に地震が起きました。学校には、ぐらぐらゆれるとあぶないものがたくさんあります。

①下のイラストの中で、あぶないものに○をつけましょう。



②教室にいる時に地震が起きたら、あなたはどうしますか？

Blank space for writing the answer to question 2.

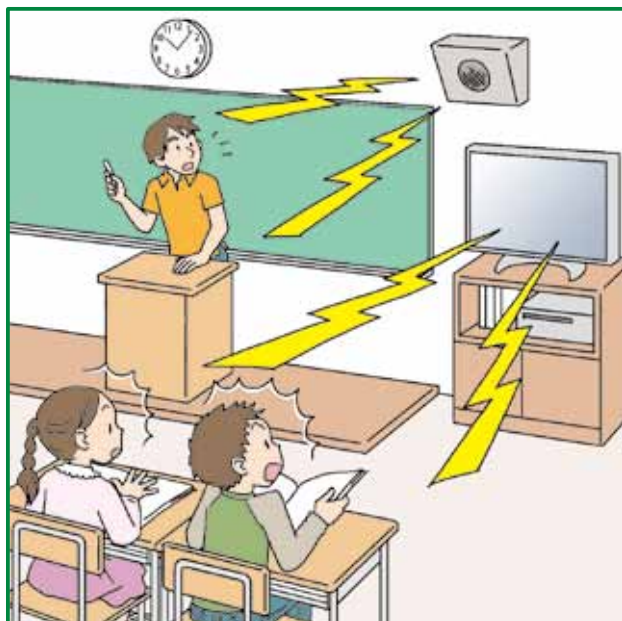
年 組 番 名前



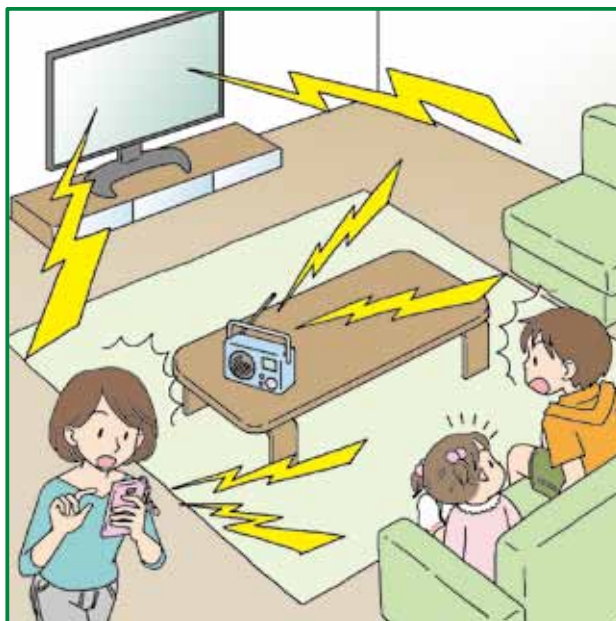
緊急地震速報が鳴ったら どうする？

学校や家にいる時に緊急地震速報が鳴りました。
自分の身を守るためにどのように行動すればよいか考えましょう。

緊急地震速報が鳴ったら、まず何をしますか？



■ 学校にいる時



■ 家にいる時



津波災害

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

津波のメカニズムを学び、津波の特徴を理解することで、津波から身を守る方法を学習する。その上で、学習した知識を自分だけでなく家族や他の人々の安全にも気を配って行動できるようにする。

2. ねらい

- ①津波が起こるメカニズムを学ぶことで、津波から身を守る方法を考え、津波発生時、危険を回避する行動をして、自分のいのちは自分で守ることができるようにする。
- ②津波警報や避難指示等の情報を待つだけでなく、津波から身を守るポイントを身に付け、より安全な回避行動ができるようになる。
- ③自分の安全だけでなく、家族や友だち、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようになる。

3. 展開 (45分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	●「災害」について知っているか、どんなことが話し合い、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②津波が起こるメカニズムを学び、津波が来そうな時、どのようにして身を守るかについて学習する。	●DVDのA-5、A-6を見せる。 【津波のしくみ】 ・海の底で地震が起きると、津波が発生する。 ・津波のスピードはとても速く、力も強い。 ●A-6で「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、児童に問いかける。
	【考えてみよう！】津波から逃げるためのポイントは？	●児童の発言を板書し、答えは伝えずにDVDを再開する。 【津波からいのちを守るための3つの大切なこと】 ・素早く逃げる ・高いところへ逃げる ・戻らない 【避難したあとには】 ・避難したあとも状況を見て、さらに高いところへ逃げ続ける。 【日頃の備え】 ・日頃から、どこに逃げるか決めておく。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート3を配付する。
	【ワークシート3】津波から身を守るポイントを復習しよう！	
	③津波から身を守るために必要な知識を確認する。	▼津波にはどのような特徴があるのか、学んだことを整理して、津波の正しい知識を身に付けさせる。
(30分)	津波から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	▼児童によるワークシートの回答を精査し、正しい知識が身に付いているかを確認する。知識に誤りがある場合には、それを指摘し、児童が津波への対処法を理解できるように努める。
まとめ (5分)	④日頃から津波に備えておき、実際に地震が起きたら、津波のことを意識してすぐに行動することを確認する。 地震が起きたら、まず津波の可能性を考え、ただちに避難することが重要であることを理解する。	▼実際に、自分の住む地域に津波が来たと想定して、具体的な避難場所などを家族で話し合っておくように伝える。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくにはどうしたらよいか考えさせる。

年 組 番 名前



津波から身を守るポイントを復習しよう！

①下の質問で、正しいと思う方に○をつけましょう。

(1) 津波から身を守るための基本はどちらでしょうか？

- () 津波を確認するため、海に見に行く
() なるべく高いところに逃げる

(2) 大きな地震が起きました。津波が来るまでにはどのくらいの時間がかかりますか？

- () 5分くらい
() 30分くらい
() 1時間くらい
() 決まっていない

(3) 避難場所に着いたあと、しばらくしたらどうしたらよいですか？

- () 津波が本当に来たのか見に行く
() 津波警報が解除されるまで戻らない

(4) 友だちと海の近くに遊びに来ている時に大きな地震が起こり、津波の警報が出されました。友だちは、「津波をじかに見てみたい。きっとそれほど大きくないし、僕たちは足が速いから、逃げることができるよ。」と言います。どうしますか？

- () 津波を見てから逃げる
() 見に行かずにすぐに逃げる

② (4) の質問で○をつけたものについて、選んだ理由を書きましょう。



提供 気象庁

ワークシート回答例

ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」

①下の質問で、正しいと思う方に○をつけましょう。

- (1) 津波から身を守るための基本はどちらでしょうか？
() 津波を確認するため、海に見に行く
(○) なるべく高いところに逃げる
- (2) 大きな地震が起きました。津波が来るまでにはどのくらいの時間がかかりますか？
() 5分くらい
() 30分くらい
() 1時間くらい
(○) 決まっていない
- (3) 避難場所に着いたあと、しばらくしたらどうしたらよいですか？
() 津波が本当に来たのか見に行く
(○) 津波警報が解除されるまで戻らない
- (4) 友だちと海の近くに遊びに来ている時に大きな地震が起こり、津波の警報が出されました。友だちは、「津波をじかに見てみたい。きっとそれほど大きくないし、僕たちは足が速いから、逃げることができるよ。」と言います。どうしますか？
() 津波を見てから逃げる
(○) 見に行かずにすぐに逃げる

②(4)の質問で○をつけたものについて、選んだ理由を書きましょう。

- ・津波はスピードが速く、見に行ってからでは逃げられないから
- ・津波の高さが数十センチしかなくても、人を倒して水の中に引きずり込む力があって危険だから



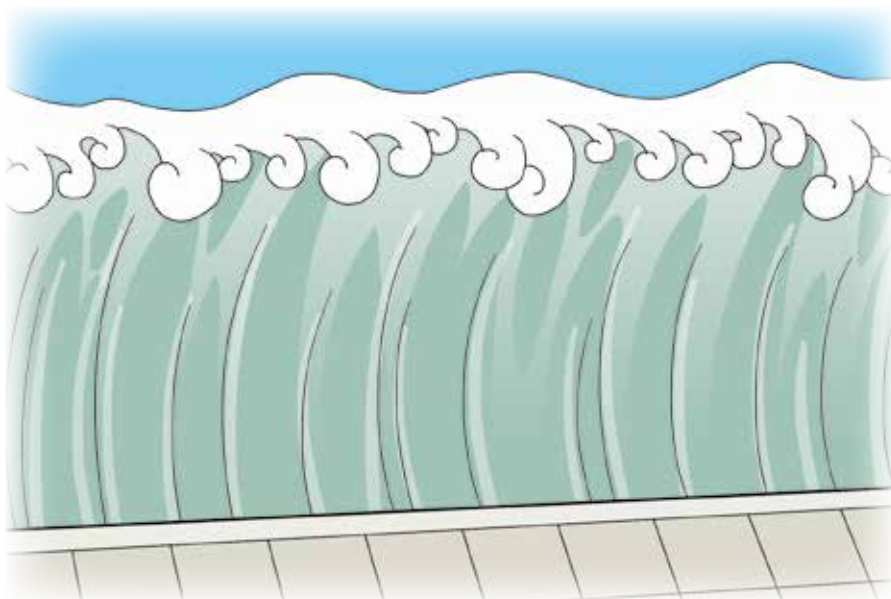
提供 気象庁

指導のポイント

ワークシートでは、津波の危険から身を守るための基本的な方法を確認します。

「海と逆方向に逃げるといふより、高台に逃げなくてはならない」「避難してからでもすぐに安心せず、津波の危険が完全に去るまで戻らない」といった基本的なことを復習しましょう。

児童と答え合わせするだけでなく、津波のメカニズムや身の守り方を理解できるような説明や、話し合いの時間を確保するようにしましょう。



風水害

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

このプログラムの使い方

風水害のプログラム（p31～36）は、すべてつなげて1回分の授業として行うか、もしくは「台風・豪雨」「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のいずれかを組み合わせた授業として行うことができます。p34のワークシート4は、「台風・豪雨」の授業の時に使用してください。p35のワークシート5は「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のどの授業で使用してもかまいません。

台風・豪雨（15分）



A-7 台風・豪雨を知ろう／台
風・豪雨から身を守るう

1. プログラムの趣旨

毎年、夏から秋にかけて、台風が日本を通り過ぎることで、たくさんの雨が降り、強い風が吹き、各地に大きな被害をもたらす。ここでは、台風がもたらす様々な災害（洪水・高潮・土砂災害）について学び、台風が日本に近づいてくることを天気予報によって前もって知り、最新の情報を確認することが重要であることを学習する。

2. ねらい

- ① 台風のしくみを知ることで、台風がもたらす様々な災害を学習する。台風から身を守る方法を学び、台風接近時、自分で危険を回避する行動ができるようにする。
- ② 近づいてくる台風の特徴（大きさ、位置など）はあらかじめ気象情報で確認できるので、最新の気象情報を確認して災害に備えるようにする。
- ③ 災害時に必要な知識を適切に用いることで、自分の安全だけでなく、家族や友だち、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようにする。

3. 展開（15分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	① 台風・豪雨について学ぶ。 台風がどのようなしくみで起こるのかを知り、台風からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVDのA-7を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、児童たちに問いかける。 【考えてみよう！】すぐに避難したほうがよい場合は？
展開 (7分)	② 台風のしくみと危険を知り、身の守り方を理解する。 台風が近づいてきた時のシチュエーションごとの具体的な対処法をワークシートに記入し、発表する。	● 児童の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずにDVDを再開する。 【すぐに避難したほうがよい場合】 ・ 家が川や海の近くや、崖下や沢の近くにある場合は、大人の指示にしたがってすみやかに避難する。 ● 「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート4を配付する。
まとめ (3分)	③ 台風が近づいている時には、天気予報をチェックし、適切に対処することを確認する。	▼ 台風接近時は子どもだけの外出を控え、早めの避難ができるようにすることを伝える。 ▼ 自分の身を守るだけでなく、学んだことを他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

積乱雲 (6分)



A-8 積乱雲を知ろう

1. プログラムの趣旨

「大気の状態が不安定」と天気予報が伝えられた場合、積乱雲が発生し、それに伴って様々な災害が起きやすい。ここでは「雷」「局地的大雨」「竜巻」を引き起こす積乱雲について学ぶ。

2. ねらい

積乱雲のメカニズムを学ぶため、天気予報で「大気の状態が不安定」と聞いたら、積乱雲が発生しやすい気象条件であることを理解する。

3. 展開 (6分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (4分)	①積乱雲について学ぶ。 積乱雲とはどんな時に発生するのか、それによりどんな影響があるのか理解する。	● DVD の A-8 を見せる。 【積乱雲の特徴】 ・急に発生して、雷や大雨、竜巻といった災害を引き起こす。 ・地面が暖かく、上空に冷たい空気がある「大気の状態が不安定」な時に発生しやすい。
	②積乱雲が見えたらどのようにすればよいか考える。	▼積乱雲を見たことがあるかどうか児童に問いかけ、その時の天気について話し合う。 ▼積乱雲の発達によって起こりうることとして「雷・局地的大雨・竜巻」をあげ、それぞれを簡単に説明する。キーワードである「大気の状態が不安定」を板書する。
まとめ (2分)	③大気の状態が不安定な時には、できるだけ外出しないことを確認する。	▼天気予報に注意するなど、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

雷 (8分)



A-9 雷を知ろう／雷から身を守る

1. プログラムの趣旨

積乱雲が発達してきたら、「雷」が発生する条件が整うということを知り、雷から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

雷から身を守る方法と、危険な場所、安全な場所を学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (6分)	①雷について学ぶ。 雷がどのようなしくみで起こるのかを知り、雷からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-9 を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVD を一時停止し、児童に問いかける。
	【考えてみよう！】雷が鳴ったら、近づいてはいけないのはどこ？ ②雷から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 児童の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずに DVD を再開する。 【雷への対処】 ・高いものに近づかない。 ・建物や自動車の中に避難する。 ・建物がまわりにはない場合には、姿勢をなるべく低くしてやり過ごす。
まとめ (2分)	③外出中に雷の音が聞こえたら、すぐに避難することを確認する。	▼雷鳴に気づいたら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

局地的大雨 (8分)



A-10 局地的大雨を知ろう／局地的大雨から身を守ろう

1. プログラムの趣旨

発達した積乱雲が突然大雨を降らせることがあり、その状態から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

- ①局地的大雨とはどのようなものか。局地的大雨は、ある地域にだけ降る大雨で、台風と違い事前に予測することができないことを学ぶ。
- ②局地的大雨から身を守る方法について学ぶ。DVDを参照しながら、局地的大雨の前ぶれ、身を守る方法を視覚的に理解する。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開	①局地的大雨について学ぶ。 局地的大雨がどのようなしくみで起こるのかを知り、大雨からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVDのA-10を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、児童に問いかける。
	②局地的大雨から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 児童の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずにDVDを再開する。 【局地的大雨の前ぶれ】 ・ 積乱雲で空が覆われる。 ・ 雷の音が聞こえる。 ・ ヒヤッとした冷たい風が吹く。 【局地的大雨への対処】 ・ 川や用水路からすぐに離れる。 ・ 頑丈な建物に入りむやみに外出しない。
まとめ	③外出中に大雨に遭ったら、すぐに避難することを確認する。	▼局地的大雨の前ぶれが分かったら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

竜巻 (8分)



A-11 竜巻を知ろう／竜巻から身を守ろう

1. プログラムの趣旨

発達した積乱雲は竜巻を引き起こす可能性がある。竜巻から身を守る方法を学習する。

2. ねらい

竜巻の前ぶれや身を守る方法について学ぶ。DVDを参照しながら、竜巻の前ぶれ、身を守る方法を視覚的に理解する。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開	①竜巻について学ぶ。 竜巻がどのようなしくみで起こるのかを知り、竜巻からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVDのA-11を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、児童に問いかける。
	②竜巻から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 児童の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずにDVDを再開する。 【竜巻から身を守る方法】 ・ 鉄筋コンクリートなどの頑丈な建物の中に避難する。 ・ 建物の中では窓から離れ、机の下などに入って頭と首を守る。
まとめ	③竜巻の前ぶれを見つけたら、すぐに避難することを確認する。	▼天気予報に注意するなど、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

年 組 番 名前



天気予報で、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？

テレビの天気予報で台風が近づいていることを伝えています。
どのような危険があるのでしょうか。



①台風の時に、予測される危険は何ですか？ 上のイラストを参考に、書き出しましょう。

②避難する時に気をつけることはどんなことですか？

年 組 番 名前



「大気の状態が不安定」な時の危険は何がある？

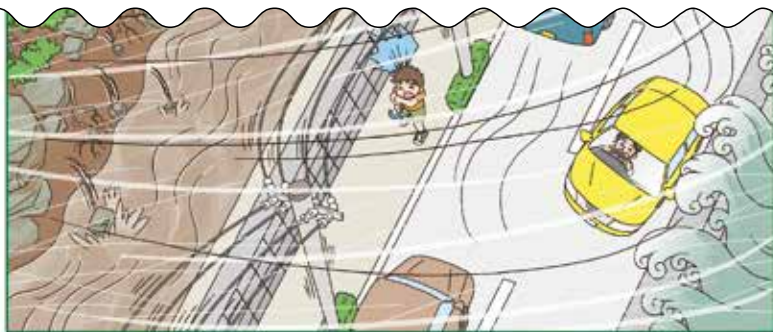
テレビの天気予報で、「大気の状態が不安定」と言っていましたが、前から友だちとハイキングに行く約束をしており、川の中州でバーベキューをして、山頂からはまわりの山々が見渡せる山に出かけてしまいました。どんな危険があるのでしょうか？



ハイキング先ではどのような危険があるかまた、どうしたらよいか、あげてみましょう。

ワークシート回答例

ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」



①台風の時に、予測される危険は何ですか？ 上のイラストを参考に、書き出しましょう。

- ・大量の雨が川や用水路に流れ込み、洪水になる
- ・低いところでは家が水につかってしまうおそれがある
- ・海の近くの低いところでは、高潮になると、大量の雨水が流れ込んでくる
- ・山などの斜面に雨が染み込み、崖下や沢の近くでは、けが崩れや土石流が起きる

②避難する時に気をつけることはどんなことですか？

- ・普段から自分の住んでいる地域の特徴を調べ、家が川や海のそばの低い所や崖の近くにある場合には、いつでも避難できるようにしておく
- ・市町村から避難勧告などが出されたらすぐに避難する
- ・雨や風が強くなってからの避難、夜暗くなってからの避難は危険なので、危険が予測される時は、早めの避難を心がける

指導のポイント

DVD で学んだ知識の復習のほか、児童たちが体験した過去の台風の事例などから、台風の危険を挙げさせましょう。回答させながら、台風の特徴（強い風が吹く、短い間に大量の雨が降る、など）を板書して、想像力を補うのもいいでしょう。

台風への対策の基本は「外出しないこと」ですが、家の中にはあぶない場合には、避難が必要です。学校や町が海や川の近くにある、山間にあるなど、地域の実情に合わせて、避難勧告の基準や避難場所をあらかじめ確認しておきましょう。

ワークシート5「積乱雲を知ろう」

指導のポイント

「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたら、積乱雲が発達する可能性があることを、まずは印象づけましょう。積乱雲が発達すると「雷」「局地的大雨」「竜巻」などのおそれがあります。これらへの最も有効な対処法は「外出しないこと」ですが、外出中に遭遇してしまった場合も考慮して、対処法を考えておきましょう。

また、積乱雲は多くの場合短時間に一気に発達するため、例えば朝には晴れていても、昼や夕方局地的大雨に遭遇する可能性などがあることを補足しておきましょう。



ハイキング先ではどのような危険があるかまた、どうしたらよいか、あげてみましょう。

- ・積乱雲が発達して、雷が鳴りはじめ、落雷の危険があるので、高いものに近づかず、自動車や建物の中に避難する。ない場合は、なるべく姿勢を低くする
- ・局地的大雨によって、川や用水路があふれるので、それらからすぐに離れる
- ・増水によって川の中州に取り残されるので、大雨が降ったら、すぐに川から離れる
- ・積乱雲が発達して、竜巻が発生するので、頑丈な建物の中に避難する

雪害

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

日本の半分の地域で起こる可能性のある雪害について学び、降っている時の危険と降ったあとの危険について学ぶ。

2. ねらい

- ①雪害は私たちに身近な災害のひとつであることを理解する。
- ②雪の特徴から引き起こされる災害の種類をまとめさせる。

3. 展開（15 分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①大雪と雪害について学ぶ。 大雪による災害、雪害について学び、どのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-12 を見せる。 【大雪による災害の例】 ・雪の重さで建物が倒れる。 ・雪の積もった斜面で雪崩に巻き込まれる。 ・屋根の上に積もった雪が落ちてくる。 【危険を回避するために】 ・大雪のおそれがある時は外出しない。 ・雪崩が起きそうな斜面などには近づかない。 ・屋根の雪下ろしは、命綱をつけて必ず 2 人以上で行う。 雪かきも 2 人以上で行う。 ● 「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート 6 を配付する。
展開 (7分)	②大雪から身を守るために必要な行動について考える。 大雪から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、話し合う。	▼児童によるワークシートの回答について話し合い、正しい知識が身についているかを確認する。
まとめ (3分)	③大雪が降ったら、雪害を想定して行動する。 大雪に対しては、雪害に備えつつ対処することが重要であることを理解する。	▼大雪が降ったら、被害を避けるためには慎重な行動が大切であることを確認する。

ワークシート回答例

ワークシート 6 「大雪を知ろう／大雪から身を守ろう」

①下のイラストの中で、あぶないものに○をつけましょう。

②○をつけたところで、危険から身を守るにはどんなことに気をつければよいでしょうか？

- ① 雪かきの雪が下を通行している人に落ちてくる
- ② オートバイがスリップする
- ③ 車のブレーキが効かず、制動距離が長くなる
- ④ 片足屋根のカーポートが倒れてくる
- ⑤ 積もった雪が落ちてくる
- ⑥ 雪かき中に転落する

指導のポイント

雪の多く降る地域では、過去の事例を参考に危険のある場所を挙げ、積雪の際にはどの道を通たらいいか、吹雪の時にはどこに避難するのがよいかなど、具体的な例を挙げながら授業を展開していくのがよいでしょう。

雪がめったに積もらない地域では、雪への対処の知識が乏しい可能性があります。DVD で学んだ基本的な事項をあらためて確認することを目標に、授業を展開しましょう。

火山災害

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

世界有数の火山大国である日本には多数の活火山があり、その活動によって大きな被害に見舞われることがある。火山の現況と火山災害から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

- ① 様々な火山災害の種類があり、気象庁が活火山を監視していること、危険性が高い 47 の火山は 24 時間体制で監視していることを知る。
- ② 火山災害から身を守る方法を学ぶ。火山活動が活発になると噴火警報が出されるので、テレビやラジオの最新の情報を確認することの大切さを知り、活用できるようにする。

3. 展開（10 分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (7分)	①火山について学ぶ。 火山災害にはどのようなものがあるのか理解する。	● DVD の A-13 を見せる。 【火山災害の特徴】 ・火山が噴火すると、溶岩、高温のガス、火砕流などで大きな被害をもたらす。 ・火山を監視している気象庁から、噴火警報が出たらすみやかにそれに従う。 ・噴火していなくても、有毒なガスが噴き出していることもあるので注意する。
	②火山災害が起こったらどうするか考える。	▼自分の住んでいる地域の近くで活動する可能性のある火山があるか、確認してみる。ある場合は、それが噴火した場合どうなるかも考えてみる。
まとめ (3分)	③警報が出たらすぐに避難する。普段から危険な場所には近づかないことを確認する。	▼火山の近くの学校では、火山に対する慎重な行動が必要であることを理解する。 ▼火山のない地域の児童も、旅行や引っ越しなどにより、無関係ではないことを理解させる。





災害に備える

社会

理科

体育

総合学習

特別活動

1. プログラムの趣旨

災害には日頃の備えが重要である。日頃の備えを多面的に学ぶことで、災害から自分のいのちは自分で守ることを意識させる。

2. ねらい

- ①災害に対する日頃の備えについて学ぶ。
- ②正しい情報を入手することが生き抜くためには役立つことを学ぶ。
- ③いのちを守るための知識を常に新しいものにしておくために、地域の避難訓練などに積極的に参加する意識をもたせる。

3. 展開 (45分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	●「災害」について知っているか、どんなことが話し合い、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②災害への備えについて学び、災害に対しては、日頃の備えが大切であることを学習する。	●DVDのA-14、A-15、A-16、A-18を見せる。 【家の中の危険に備える】 ・家具や家電にストッパーをつけたり、倒れても影響が少ない場所に移動する。 ・部屋の中に靴やスリッパを用意する。 ・日頃から家の中の何が危険いか、どこが安全かを家族で話し合う。 【家庭での備蓄をする】 ・災害が起こって救助が来るまで目安は3日間。3日間生きられる備えが必要。 ・自分用の避難バッグを用意し、無理なく持てる重さにおさえ、すぐに持ち出せるところに置いておく。 ・避難が最優先される津波や洪水においては、モノを置いて避難し、いのちを守ることが重要。 【家族で事前に話し合う】 ・どこに集合するかを決めておく。 ・ハザードマップなどを見ながら、一時的に避難する「避難場所」と長期的に避難する「避難所」を確認しておく。 ●「ふりかえってみよう!」の画面が出たら、ワークシート7を配付する。
【ワークシート7】災害に備えて、どんな準備をしていますか？		
(30分)	③災害への備えの重要性を理解する。 災害に備えて、家庭であらかじめ備蓄をしたり、危険を話し合ったりすることが必要であることを理解する。	▼このワークシートは、この場で記入して回収するのではなく、家に持ち帰り、家族と話し合ってから後日提出するものであることを説明する。 ▼その際に、ただワークシートに記入するのではなく、実際に防災への備えを考えて備蓄などを行うように薦める。
まとめ (5分)	④防災への意識を高め、普段から災害を想定した備えを行うことを確認する。 ワークシートを持ち帰り、家族で話し合いをさせることで防災の意識を高める。	▼教師が、自分の家で行っている備えなどを説明し、家庭でのワークシートの取り組みがしやすくなるようにする。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

年 組 番 名前



災害に備えて、 どんな準備をしていますか？

チェックリストにあるものをバッグにつめて、一人ひとつ避難バッグを作ってみましょう。

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

<p>貴重品</p> <p><input type="checkbox"/> 現金 (小銭をふくむ) ※公衆電話用に 10 円玉、100 円玉も</p> <p><input type="checkbox"/> 印鑑</p> <p>※以下の 2 つは、現物を持ち出せなかった時に備えてコピーを入れておく。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康保険証</p> <p><input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの (学生証、パスポートなど)</p> <p><input type="checkbox"/> 予備の眼鏡</p> <p>情報収集用品</p> <p><input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器をふくむ)</p> <p><input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池をふくむ)</p> <p><input type="checkbox"/> 家族の写真 (はぐれた時の確認用)</p> <p><input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記用具</p>	<p>食料など</p> <p><input type="checkbox"/> 非常食</p> <p><input type="checkbox"/> 飲料水</p> <p>便利品など</p> <p><input type="checkbox"/> ヘルメット</p> <p><input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池をふくむ)</p> <p><input type="checkbox"/> 笛やブザー (音を出して居場所を知らせるもの)</p> <p><input type="checkbox"/> 万能ナイフ</p> <p><input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ</p> <p><input type="checkbox"/> マスク</p> <p><input type="checkbox"/> ビニール袋</p> <p><input type="checkbox"/> アルミ製保護シート</p> <p><input type="checkbox"/> 毛布</p> <p><input type="checkbox"/> スリッパ</p>	<p>便利品など</p> <p><input type="checkbox"/> 軍手</p> <p><input type="checkbox"/> マッチかライター</p> <p><input type="checkbox"/> 給水袋</p> <p><input type="checkbox"/> 雨具 (レインコート、長靴など)</p> <p><input type="checkbox"/> 簡易トイレ</p> <p>清潔・健康のためのもの</p> <p><input type="checkbox"/> 救急セット</p> <p><input type="checkbox"/> 常備薬</p> <p><input type="checkbox"/> タオル</p> <p><input type="checkbox"/> トイレットペーパー</p> <p><input type="checkbox"/> 着替え (下着をふくむ)</p> <p><input type="checkbox"/> ウェットティッシュ</p> <p><input type="checkbox"/> 生理用品</p> <p><input type="checkbox"/> 歯みがきセット</p>
--	--	--

②上のリストのほかに、自分が必要だと思うものを書きましょう。

③家族と相談して、集合場所や約束ごとを決めて、書きましょう。

ワークシート回答例

ワークシート7「災害に備える」

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

<input type="checkbox"/> 現金 (小銭をふくむ) ※公家電話用に10円玉、100円玉も	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> 印鑑	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> マッチかライター
※以下の2つは、役物を持ち出せなかった時に備えてコピーを入れておく。	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 防水袋
<input type="checkbox"/> 健康保険証	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池をふくむ)	<input type="checkbox"/> 雨具 (レインコート、長靴など)
<input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの (学生証、パスポートなど)	<input type="checkbox"/> 雨やブザー (音を出して居場所を知らせるもの)	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ
<input type="checkbox"/> 予備の駅券	<input type="checkbox"/> 万能ナイフ	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器をふくむ)	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> 常備薬
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池をふくむ)	<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> タオル
<input type="checkbox"/> 家族の写真 (はぐれた時の確認用)	<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー
<input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ	<input type="checkbox"/> アルミ製保護シート	<input type="checkbox"/> 着替え (下着をふくむ)
<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 毛布	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
	<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 生理用品
		<input type="checkbox"/> 歯みがきセット

②上のリストのほかに、自分が必要だと思うものを書きましょう。

例：普段つかっている薬、ぜんそくの吸入器、(冬の場合) 防寒具など

③家族と相談して、集合場所や約束ことを決めて、書きましょう。

例：避難所である〇〇小学校に集合する

災害後、3日間はできるだけ避難所から動かない

指導のポイント

このワークシートは他のものと異なり、一度家に持ち帰って記入してもらうものです。

後日回収し、確認したあとに返却して家で保管するように指導しましょう。また、回収が難しい場合は、後日の提出はせずに家庭での話し合いを薦めるにとどめ、そのまま持ち帰らせることにしてもよいでしょう。



※イメージです。

災害の経験から未来へ

DVD の C－１「災害の経験から未来へ」を児童に見せたあと、ワークシート 8 を配付し、感じたこと、考えたことを自由に記入させましょう。

また、被災地の先生からのメッセージを読み、先生自身も災害から「いのちをつなぐ」ことについて、今一度考えてみてください。

被災された先生からのメッセージ

2011 年 3 月 11 日、大きな揺れと同時に、子どもたちの悲鳴や泣き声が聞こえました。放送機器も使用できなくなったので、一人一人の先生方の判断で子どもたちの命を必死に守っていました。大きな声で誘導する先生、余震から身を守るために子どもたちに覆い被さる先生…今でもその姿が目につかびます。

近い将来に大きな災害がやってくると言われ、将来に不安を持つ子どもたちが、災害をおそれるのではなく、災害と向き合う方法を知り、未来に希望や夢を持って進めるようにとこの教材を作成しました。

がれきの中を歩いていた子どもたちは、今、たくましく成

長し、きつと地域の復興の大きな力となっていることでしょう。

学習を終えた子どもたちには、これから出合うそれぞれの場所で想定される災害から自分のいのちを守ること、そして他の人のいのちを守る方法があることに気づかせてください。夢や希望を持って今のいのちを輝かすことのすばらしさを、他の人のために何かすることのすばらしさを伝えてください。そしてふるさとで育ち生きていくことに誇りと意欲を持たせてください。

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員

いわき市立好間第一小学校

校長 松本 光司



©日本赤十字社

▲津波によって陸地まで流されてきた船。



©日本赤十字社

▲津波によって被害を受けた岩手県山田町の様子。



©日本赤十字社

▲がれきの中を歩く岩手県山田町の子どもたち。

年 組 番 名前

いのちをつなぐために

① 「災害の経験から未来へ」 のどんな場面が印象に残りましたか？

② 自分たちにできることは何でしょうか？

中学生用 高校生用

地震災害

中学・社会 中学・理科 中学・保健 中学・総合 中学・特活
高校・理科 高校・保健 高校・総合 高校・特活

1. プログラムの趣旨

地震についての理解を深めるため、DVDやワークシート教材を活用して、日常生活の様々な場面で地震から身を守る方法を学ぶことで、地震の時に危ないものに気づき、自らの安全を確保する方法を知る。また、学んだものを広めることで、友人、家族、地域社会の人々の安全の確保に貢献する。

2. ねらい

- ① 地震が起こるメカニズムを学ぶとともに、日本は地震が多い国であることを理解する。
 - ② 地震から身を守る方法を知り、地震災害時、危険を回避する行動ができるようになる。
 - ③ 緊急地震速報のしくみを学習し、揺れが来るまでの間に何ができるかを考え、行動できるようになる。
 - ④ 中学生は学習したことをもとに、地震災害の時に自分の身を守るだけでなく、他の人のためにできることを積極的に行うようになる。
- 高校生は学んだことを活用することで、自らの安全の確保だけでなく、地震災害の時に友人、家族、地域社会の人々に意欲的に貢献する取り組みができるようにする。

3. 展開 (50分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●「災害」にはどんなものがあるか話し合い、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回のふりかえりを行う。
展開	②地震が起こるメカニズムを学び、地震が起こった時、どのようにして身を守るかについて学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDのA-2、A-3を見せる。 ●A-3で「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、以下を板書する。 【地震の時に気をつけなければいけないもの】 <ul style="list-style-type: none"> ・倒れてくるもの ・落ちてくるもの ・移動してくるもの ●DVDを再開する。 【家の中の対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルの下に隠れ、テーブルの脚をしっかりとにぎる。 ・テーブルがなければ、クッションなどをかぶって頭を守る。何もなければ、柱のそばで、体を小さくしてうずくまり、手の甲を外側にして頭を守る。 【道を歩いている時の対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀、電信柱など、危険なものから離れる。 ・電車やバスでは、指示に従って落ち着いて行動する。 【教室での対処】 <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐり、机の脚をしっかりとにぎる。 ●「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート1を配付する。
	【ワークシート1】地震が起きた時、考えられる危険は？	
	③様々な場所で地震が起きた時の危険を知り、身の守り方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼学校だけでなく、家の中や通学路など、様々な場所で地震が発生する可能性があることを伝える。 ▼「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「移動してくるもの」のそれぞれに注目させる。
	どんな危険があるか、危険から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼生徒の発言に応じて、「もし近くに机がなかったら（回答例：体を小さくしてうずくまり頭を両手でしっかり守る）」「地震で揺れている時に外へ逃げてもよいだろうか（回答例：古い建物の中にいる場合は、いち早く外に出ることも必要）」など、追加の質問を行う。
	④緊急地震速報のしくみを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ▼「緊急地震速報」を知っているか問いかけ、知っている人に手を挙げさせる。 ●DVDのA-4を見せる。 【緊急地震速報とは】 <ul style="list-style-type: none"> ・震度5弱以上の強い揺れが予測される場合に震度4以上が予想される地域に対して出される。 ●「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート2を配付する。
	【ワークシート2】緊急地震速報が鳴ったら？	
	緊急地震速報が鳴った時に、とるべき行動をワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼まわりへの声かけが重要なことを伝える。 ▼先ほどの授業で学んだ、危険から身を守る方法を思い出させる。
まとめ (5分)	⑤危険なものを早く見つけて、すぐに離れることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼授業でふれなかったシチュエーション（外出している時など）でも、同じように、危険をいち早く見つけて離れることが大切であることを補足する。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

年 組 番 名前



地震が起きた時、考えられる危険は？

地震は、いつどこで起きるか分かりません。どんなところで地震に遭っても、危険を予測し、回避できるように、それぞれの場所で考えられる危険を挙げましょう。

次の場所で地震が起きた時に予測される危険と、それを回避する方法を書きましょう。

■ 学校内（教室、トイレ、体育館、音楽室、理科室など）

予測される危険

回避方法



■ 家の中

予測される危険

回避方法

■ 通学路（徒歩）

予測される危険

回避方法

■ 電車やバスの中

予測される危険

回避方法



年 組 番 名前



緊急地震速報が鳴ったら？

緊急地震速報は地震対策のひとつです。どのようなしくみになっているのでしょうか。

緊急地震速報を活用して、自分の身を守るだけでなく、周囲の人のいのちを守ることができる行動について、考えましょう。

①緊急地震速報は、どんな時に発せられるのでしょうか。

②緊急地震速報は、何によって知ることができるのでしょうか。

③緊急地震速報が鳴ったら、何をしたらよいのでしょうか。

ワークシート回答例

ワークシート1「地震から身を守ろう」

次の場所で地震が起きた時に予測される危険と、それを回避する方法を書きましょう。

■ 学校内（教室、トイレ、体育館、音楽室、理科室など）

予想される危険 棚が倒れてくる 音楽室のピアノが移動してくる	回避方法 「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「移動してくるもの」から離れて身を守る
--------------------------------------	---



■ 家の中

予想される危険 たんす・テレビ・本棚などが倒れてくる	回避方法 丈夫なテーブルの下など安全な場所に隠れる
-------------------------------	------------------------------



■ 通学路（徒歩）

予想される危険 ブロック塀がくずれる 電信柱が倒れてくる ビルの窓ガラスが落ちてくる	回避方法 危険なものから離れて、できるだけ広い場所で姿勢を低くする
---	--------------------------------------

■ 電車やバスの中

予想される危険 電車やバスが急停車する	回避方法 車内アナウンスの指示に従い、まわりの様子に注意しながら落ち着いて行動する
------------------------	--

指導のポイント

それぞれの場所における、「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「移動してくるもの」に注目させましょう。

記入している時に、「理科室で実験中の場合には、どうしたらよいだろうか」など、様々なシチュエーションを挙げ、想像させるようにしましょう。

回避方法の基本は、「危ないものから離れる」、「安全なところで体を低くする」です。生徒が発表した回避方法について、それぞれが妥当かどうか、問題点があるとしたらどこか、クラスで検討するようにしましょう。

ワークシート2「緊急地震速報を活用して身を守ろう」

指導のポイント

基本的に、DVD で学んだことのおさらいですので、生徒それぞれが、正確な知識を理解しているかどうかを確認してください。

事前に、生徒が多く所持している携帯電話やスマートフォンでの緊急地震速報のしくみや設定方法を調べておくといよいでしょう。

また、学校で活用できる緊急地震速報の鳴り方などについて確認しておき、生徒の発表に加えて伝えるようにするとよいでしょう。

①緊急地震速報は、どんな時に発せられるのでしょうか。

震度5弱以上の強い揺れが予測される場合に、震度4以上が予想される地域に対して発せられる

②緊急地震速報は、何によって知ることができるのでしょうか。

テレビ、ラジオ、街の中に設置されたスピーカー、携帯電話、スマートフォン

③緊急地震速報が鳴ったら、何をしたらよいのでしょうか。

- ・他の人に声をかける
- ・ドアを開けて逃げ道を確保する
- ・身構える
- ・机があればもぐる
- ・話をやめてラジオや放送を聞く

津波災害

中学・社会 中学・理科 中学・保体 中学・総合 中学・特活
高校・理科 高校・保体 高校・総合 高校・特活

1. プログラムの趣旨

津波のメカニズムを学び、津波の現象の特徴を理解することで、津波から身を守る方法を身に付ける。また、学んだことを広めることで友人、家族、地域社会の人々の安全の確保に貢献する。

2. ねらい

- ①津波が起こるメカニズムを学ぶことで、津波から身を守る方法を考え、津波発生時、自分のいのちは自分で守ることができるようになり、危険を回避する行動ができる。
- ②津波警報や避難指示等の情報を待つのではなく、津波から身を守るポイントを身につけ、より安全な回避行動ができるようになる。
- ③中学生は学習したことをより深く理解し、津波災害の時に自分の身を守るだけでなく、自分が他の人のためにできることを積極的に行うようになる。
高校生は学んだことを活用することで、自らの安全の確保だけでなく、津波災害の時に友人、家族、地域社会の人々に意欲的に貢献する取り組みができるようになる。

3. 展開 (50分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	●「災害」にはどんなものがあるか話し合い、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回の授業のふりかえりを行う。
展開	②津波が起こるメカニズムを学び、津波が来そうな時、どのようにして身を守るかについて学習する。	●DVDのA-5、A-6を見せる。 ●A-6で「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、以下を板書する。 【津波からいのちを守るための3つの大切なこと】 ・素早く逃げる ・高いところへ逃げる ・戻らない ●DVDを再開する。 【避難したあとには】 ・避難したあととも状況を見て、さらに高いところへ逃げ続ける。 【日頃の備え】 ・日頃から、どこに逃げるか決めておく。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート3を配付する。
	【ワークシート3】津波からいのちを守るポイントは？	
	③津波から身を守るために必要な知識を確認する。	▼津波にはどのような特徴があるのか、学んだことを整理して、津波の正しい知識を身につけさせる。
(35分)	津波から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、発表する。	▼生徒によるワークシートの回答を精査し、正しい知識が身についているかを確認する。知識に誤りがある場合には、それを指摘し、生徒が津波への対処法を理解できるように努める。
まとめ (5分)	④日頃から津波に備えておき、実際に地震が起きたら、津波のことを意識してすぐに行動することを確認する。 地震が起きたら、まず津波の可能性を考え、ただちに避難することが重要であることを理解する。	▼実際に、自分の住む地域に津波が来たと想定して、具体的な避難場所などを家族で話し合っておくように伝える。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくにはどうしたらよいか考えさせる。

年 組 番 名前



津波からいのちを守る ポイントは？

津波のメカニズムを知ること、津波の特徴が分かります。
津波から命を守るにはどうしたらよいのか学びましょう。

①津波から身を守るために大切な3つのこととは何でしょうか。

①	②	③
---	---	---

②津波は繰り返し襲ってきます。しかも、1回目の波がいちばん大きいとは限りません。
これをふまえて、津波から身を守るポイントを書きましょう。

--

③津波が来た時に備えるため、日頃からやっておいた方がよいことを書きましょう。

--



※イメージです。

ワークシート回答例

ワークシート3「津波を知ろう／津波から身を守ろう」

①津波から身を守るために大切な3つのこととは何でしょうか。

- | | | |
|----------|-------------|--------|
| ① 素早く逃げる | ② 高いところへ逃げる | ③ 戻らない |
|----------|-------------|--------|

②津波は繰り返し襲ってきます。しかも、1回目の波がいちばん大きいとは限りません。これをふまえて、津波から身を守るポイントを書きましょう。

とにかく高い場所を目指す。避難してももう大丈夫と安心しないで、まだ危険だと思ったらさらに高いところに逃げ続けること

③津波が来た時に備えるため、日頃からやっておいた方がよいことを書きましょう。

- どこに逃げたら安全かを地図で確認し、実際にその場所に行って、見ておく
- 一時的に津波から避難する「津波避難場所」を確認し、津波の避難に適した「津波避難ビル」を確認したりしておく
- 津波の時はどこの「避難場所」で会うかを家族と確認しておく



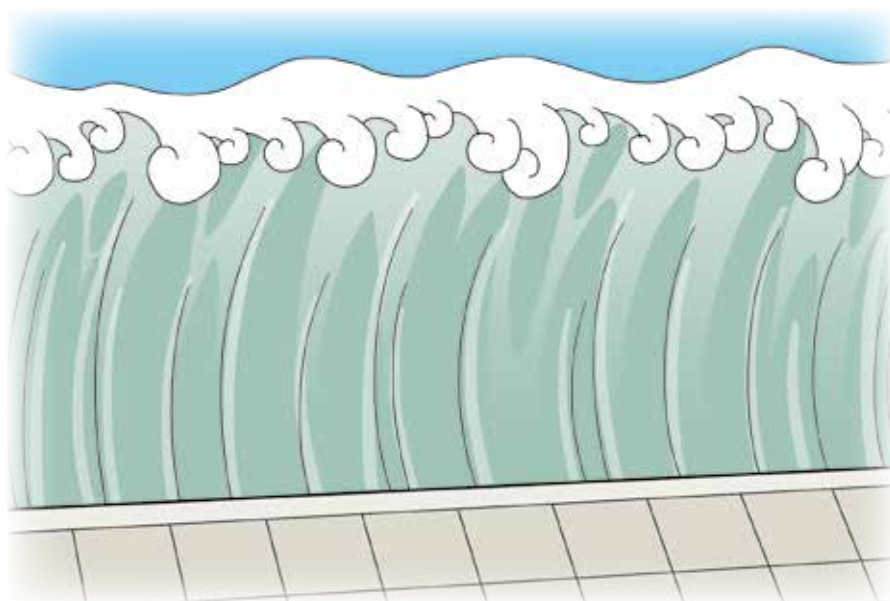
※イメージです。

指導のポイント

ワークシートでは、津波の危険から身を守るための基本的な方法を確認します。

「海と逆方向に逃げるのではなく、高台に逃げなくてはならない」「避難してからでもすぐに安心せず、津波の危険が完全に去るまで戻らない」といった基本的なことを復習すると同時に、生徒に対して、家庭や地域での日頃の備えを確認しましょう。

生徒に解答を発表させた際には、正しい解答を提示し、クラスの全員が解答を理解できるようになるまで、ていねいに説明するようにしてください。



風水害

中学・社会 中学・理科 中学・保体 中学・総合 中学・特活
高校・理科 高校・保体 高校・総合 高校・特活

このプログラムの使い方

風水害のプログラム（p53～58）は、すべてつなげて1回分の授業として行うか、もしくは「台風・豪雨」「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」の授業として分けて行うことができます。p56のワークシート4は「台風・豪雨」の授業の時に使用してください。p57のワークシート5は「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のどの授業で使用してもかまいません。

台風・豪雨（20分）



A-7 台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守るう

1. プログラムの趣旨

毎年、夏から秋にかけて、台風が日本を通り過ぎることで、たくさんの雨が降り、強い風が吹き、各地に大きな被害（洪水、高潮、土砂災害）をもたらす。ここでは、台風がもたらす様々な災害について学び、台風が日本に近づいてくることを天気予報によって前もって知るなど、最新の情報を確認することが重要なことを学習する。

2. ねらい

- ① 台風のしくみを知るとともに、台風がもたらす様々な災害を学ぶ。また、台風から身を守る方法を学び、台風接近時、自分のいのちは自分で守ることができるようになる。
- ② 近づいてくる台風の特徴（大きさ、位置など）はあらかじめ気象情報で確認できるので、最新の気象情報を確認して災害に備えるようにする。
- ③ 中学生は学習したことをより深く理解し、台風・豪雨の時に自分の身を守るだけでなく、家族や他の人のためにできることを積極的に行うようになる。

高校生は学んだことを活用することで、自らの安全の確保だけでなく、台風・豪雨災害の時に友人、家族、地域社会の人々に意欲的に貢献する取り組みができるようになる。

3. 展開（20分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	① 台風・豪雨について学ぶ。 台風がどのようなしくみで起こるのかを知り、台風からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVDのA-7を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVDを一時停止し、生徒たちに問いかける。
展開	【考えてみよう！】すぐに避難したほうがよい場合は？	
		● 生徒の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずにDVDを再開する。 【すぐに避難したほうがよい場合】 ・ 家が川や海の近くや、崖下や沢の近くにある場合は、気象庁や市町村の情報を参考にすみやかに避難する。 ● 「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート4を配付する。
	【ワークシート4】天気予報で、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？	
	② 台風のしくみと危険を知り、身の守り方を理解する。 台風が近づいてきた時の危険予測と避難についてワークシートに記入する。	▼ 生徒の発言に応じて、地域の具体的な地理も加味しながら、台風時の対策を考えさせる。
まとめ (3分)	③ 台風が近づいている時には、天気予報をチェックし、適切に対処することを確認する。	▼ 台風接近時は子どもだけでの外出を控え、早めの避難ができるようにすることを伝える。 ▼ 自分の身を守るだけでなく、学んだことを他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

積乱雲 (6分)



A-8 積乱雲を知ろう

1. プログラムの趣旨

「大気の状態が不安定」と天気予報が伝えられた場合、積乱雲が発生し、それに伴って様々な災害が起きやすい。ここでは「雷」「局地的大雨」「竜巻」を引き起こす積乱雲について学ぶ。

2. ねらい

積乱雲のメカニズムを学ぶため、天気予報で「大気の状態が不安定」と聞いたら、積乱雲が発生しやすい気象条件であることを理解する。

3. 展開 (6分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (4分)	①積乱雲について学ぶ。 積乱雲とはどんな時に発生するのか、それによりどんな影響があるのか理解する。	● DVD の A-8 を見せる。 【積乱雲の特徴】 ・急に発生して、雷や大雨、竜巻といった災害を引き起こす。 ・地面が暖かく、上空に冷たい空気がある「大気の状態が不安定」な時に発生しやすい。
	②積乱雲が見えたら、どのようにすればよいか考える。	▼積乱雲を見たことがあるかどうか生徒に問いかけ、見たことがある生徒に挙手させる。 ▼積乱雲の発達によって起こりうることとして「雷・局地的大雨・竜巻」をあげ、それぞれを簡単に説明する。キーワードである「大気の状態が不安定」を板書する。
まとめ (2分)	③大気の状態が不安定な時には、できるだけ外出しないことを確認する。	▼天気予報に注意するなど、被害を避けるために慎重に行動することを伝える。

雷 (8分)



A-9 雷を知ろう／雷から身を守る

1. プログラムの趣旨

積乱雲が発達してきたら、雷が発生する条件が整うということを知り、雷から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

落雷とはどのような現象なのか。DVD から、身を守る方法を学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (6分)	①雷について学ぶ。 雷がどのようなしくみで起こるのかを知り、雷からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-9 を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVD を一時停止し、生徒たちに問いかける。
	【考えてみよう！】雷が鳴ったら、近づいていけないのはどこ？ ②雷から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 生徒の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずに DVD を再開する。 【雷への対処】 ・高いものに近づかない。 ・建物や自動車の中に避難する。 ・建物がまわりにはない場合には、姿勢をなるべく低くしてやり過ごす。 ・「金属を身につけていなければ大丈夫」というのは間違い。
まとめ (2分)	③外出中に雷の音が聞こえたら、すぐに避難することを確認する。	▼雷鳴に気づいたら、被害を避けるために慎重に行動することを伝える。

局地的大雨 (8分)



A-10 局地的大雨を知ろう／局地的大雨から身を守ろう

1. プログラムの趣旨

発達した積乱雲が突然大雨を降らせることがあり、「局地的大雨」と呼ばれて、最近特に増えている。局地的大雨から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

- ①局地的大雨は、短時間にある地域にだけ降る大雨で、台風と違い事前に予測することができないことを学ぶ。
- ②DVDを活用し、局地的大雨から身を守る方法を学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開	①局地的大雨について学ぶ。 局地的大雨がどのようなしくみで起こるのかを知り、大雨からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-10 を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVD を一時停止し、生徒たちに問いかける。
	②局地的大雨から、身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 生徒の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずに DVD を再開する。 【局地的大雨の前ぶれ】 ・ 積乱雲で空が覆われる。 ・ 雷の音が聞こえる。 ・ ヒヤッとした冷たい風が吹く。 【局地的大雨への対処】 ・ 川や用水路からはすぐに離れる。 ・ 頑丈な建物に入りむやみに外出しない。
まとめ	③外出中に大雨に遭ったら、すぐに避難することを確認する。	▼局地的大雨の前ぶれが分かったら、被害を避けるために慎重に行動することを伝える。

竜巻 (8分)



A-11 竜巻を知ろう／竜巻から身を守ろう

1. プログラムの趣旨

発達した積乱雲は発生する条件が整うと竜巻を引き起こす可能性がある。竜巻が発生する条件を知り、竜巻から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

DVDを活用し、竜巻の前ぶれ、身を守る方法について学ぶ。

3. 展開 (8分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開	①竜巻について学ぶ。 竜巻がどのようなしくみで起こるのかを知り、竜巻からどのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-11 を見せる。 ● 「考えてみよう！」の画面が出たら、DVD を一時停止し、生徒たちに問いかける。
	②竜巻から身を守るためにどうしたらよいかを知る。	● 生徒の発言を板書し、一通り出たところで、答えは出さずに DVD を再開する。 【竜巻から身を守る方法】 ・ 鉄筋コンクリートなどの頑丈な建物の中に避難する。 ・ 建物の中では窓から離れ、机の下などに入って頭と首を守る。
まとめ	③竜巻の前ぶれを見つけたら、すぐに避難することを確認する。	▼竜巻の前ぶれが分かったら、被害を避けるために慎重に行動することを伝える。

年 組 番 名前

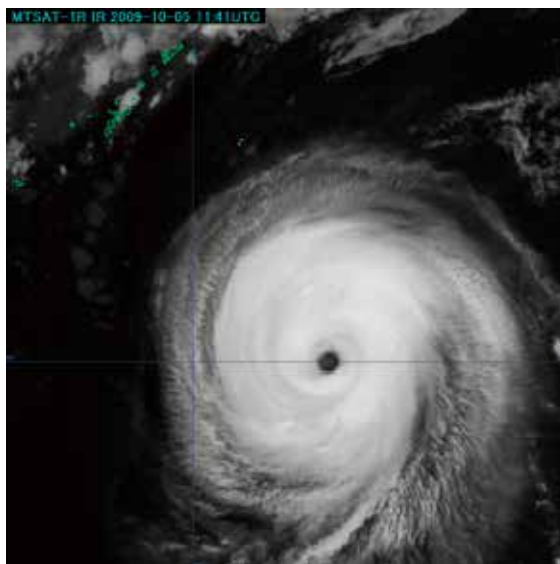


天気予報で、台風が近づいていることを知ったら、どうしたらよい？

テレビの天気予報で台風が近づいていることを伝えています。
どのような危険が予想され、どんな時に避難が必要になるのか考え
ましょう。

①台風が来ると、どんな場所でどんな危険が予想される？

②避難した方がよいのはどんな場合？



提供 気象庁

年 組 番 名前



「大気の状態が不安定」な時の危険は？

「大気の状態が不安定」という天気予報が出ていましたが、以前から友だちとハイキングに行く約束をしており、川の中州でバーベキューをして、まわりの山々が見渡せる渓谷に行く計画を立てました。

ハイキング先ではどのような危険が考えられるか、記入しましょう。また、危険に遭遇した時に、どのように対処したらよいか書きましょう。

考えられる危険

回避方法



※イメージです。



提供 気象庁

ワークシート回答例

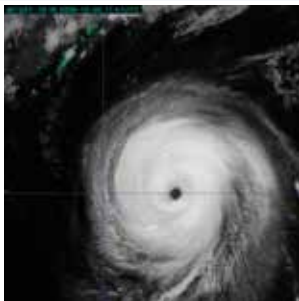
ワークシート4「台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守ろう」

①台風が来ると、どんな場所でどんな危険が予想される？

- ・家の屋根がはがれたり、木が倒れたり、走っているトラックが横倒しになったりする
- ・洪水になって低いところでは家が水につかってしまう
- ・海の近くでは高潮になると大量の海水が流れ込んでくる
- ・崖崩れや土石流のおそれがある

②避難した方がよいのはどんな場合？

- ・大雨、洪水や高潮、暴風の警報が出た時
- ・土砂災害警戒情報が出た時
- ・市町村から避難勧告が出された時



提供 気象庁

指導のポイント

DVD で学んだ知識の復習のほか、生徒たちが体験した過去の台風の事例などから、台風の危険を挙げさせましょう。回答させながら、台風の特徴（強い風が吹く、短い間に大量の雨が降る、など）を板書して、想像力を補うのもよいでしょう。

台風への対策の基本は「外出しないこと」ですが、家の中にはあぶない場合には、避難が必要です。学校や町が海や川の近くにある、山間にあるなど、地域の実情に合わせて、避難勧告の基準や避難場所をあらかじめ確認しておきましょう。

ワークシート5「積乱雲を知ろう」

ハイキング先ではどのような危険が考えられるか、記入しましょう。また、危険に遭遇した時に、どのように対処したらよいか書きましょう。

考えられる危険

- ①積乱雲が発達して、雷が近づいてくる
- ②突然大雨が降って川が増水し、中州に取り残される
- ③積乱雲が発達して、竜巻が発生する

回避方法

- ①雷が聞こえたら、木の近くに寄らない。しっかりした建物や自動車の中に避難する。建物や自動車が近くになければ、姿勢をなるべく低くして、地面のくぼみや溝に体をうずめる
- ②大雨の時に、川や用水路のそばにいたらすぐに離れる
- ③竜巻が近づいてきたら、鉄筋コンクリートの建物の中に入り、窓から離れる。建物がなければ、地面のくぼみや岩かげに隠れる



イメージです。



提供 気象庁

指導のポイント

「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたら、積乱雲が発達する可能性があることを、まずは印象づけましょう。積乱雲が発達すると「雷」「局地的大雨」「竜巻」などのおそれがあります。これらへの最も有効な対処法は「外出しないこと」ですが、外出中に遭遇してしまった場合も考慮して、対処法を考えておきましょう。

また、積乱雲は多くの場合短時間にいきなり発達するため、例えば朝には晴れていても、昼や夕方に局地的大雨に遭遇する可能性などがあることを補足しておきましょう。

雪害

中学・社会 中学・理科 中学・保健 中学・総合 中学・特活
高校・理科 高校・保健 高校・総合 高校・特活

1. プログラムの趣旨

日本の半分の地域に起こる可能性のある雪害について学び、降っている時の危険と降ったあとの危険について学ぶ。

2. ねらい

- ①雪害は私たちに身近な災害のひとつであることを理解する。
- ②雪の特徴から積雪の多い地域と少ない地域それぞれで、引き起こされる災害の種類をまとめさせる。

3. 展開 (15 分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開	①大雪と雪害について学ぶ。 大雪による災害、雪害について学び、どのようにして身を守るかについて学習する。	● DVD の A-12 を見せる。 【大雪による災害の例】 ・雪の重さで建物が倒れる。 ・雪の積もった斜面で雪崩に巻き込まれる。 ・屋根の上に積もった雪が落ちてくる。 【危険を回避するために】 ・大雪のおそれがある時は外出しない。 ・雪崩が起きそうな斜面などには近づかない。 ・屋根の雪下ろしは、命綱をつけて必ず 2 人以上で行う。雪かきも 2 人以上で行う。 ● 「ふりかえてみよう！」の画面が出たら、ワークシート 6 を配付する。
(12分)	②大雪から身を守るために必要な行動について考える。 大雪から身を守るためには、どのような行動をとればよいか、ワークシートに記入し、話し合う。	【ワークシート 6】 大雪から身を守るにはどうしたらよい？ ▼生徒によるワークシートの回答について話し合い、正しい知識が身についているかを確認する。
まとめ	③大雪が降ったら、雪害を想定して行動することを確認する。 大雪に対しては、雪害に備えつつ対処することが重要であることを理解する。	▼雪下ろしや雪かきを適切に行うことで、地域の支援活動に参加できることを理解する。 ▼まずは自分の身の安全を確保し、自分たちに何ができるかを主体的に考えて行動することが重要であることを伝える。
(3分)		

ワークシート回答例

ワークシート 6 「大雪を知ろう／大雪から身を守ろう」

雪が降っている時と、降ったあとで、考えられる危険と対処の方法を書きましょう。

■ 降っている時

考えられる危険

・視界が悪いことによる交通事故や、転倒事故の可能性がある

対処方法

・激しい雪が降っている最中は、家や店など安全なところに避難して雪がやむのを待つ

■ 降ったあと（積もっている時）

考えられる危険

・雪崩が起きる
 ・屋根に積もった雪が落ちてくる
 ・雪下ろし中に転落したり、雪かき中に水路に落ちたりする
 ・片足屋根のカーポートなどが倒壊する

対処方法

・崖や斜面には近づかない
 ・頭上を確認しながら歩く
 ・雪下ろしや雪かきは命綱をつけて 2 人以上で行う
 ・倒壊するおそれのあるものに近づかない



※イメージです。

指導のポイント

雪の多く降る地域では、過去の事例を参考に危険のある場所を挙げ、積雪の際にはどの道を通ったらよいか、吹雪の時にはどこに避難するのがよいかなど、具体的な例を挙げながら授業を展開していくのがよいでしょう。

雪がめったに積もらない地域では、雪への対処の知識が乏しい可能性があります。DVD で学んだ基本的な事項をあらためて確認することを目標に、授業を展開しましょう。

年 組 番 名前



大雪から身を守るには どうしたらよい？

大雪の予報が出ており、雪が降り続けています。危険を知り、適切に対処できるようにしましょう。また、雪かきや雪下ろしなどを安全に行い、地域に貢献できるようにしましょう。

雪が降っている時と、降ったあとで、考えられる危険と対処の方法を書きましょう。

■ 降っている時

考えられる危険

回避方法

■ 降ったあと（積もっている時）

考えられる危険

回避方法



※イメージです。

火山災害

中学・社会 中学・理科 中学・保健 中学・総合 中学・特活
高校・理科 高校・保健 高校・総合 高校・特活

1. プログラムの趣旨

日本には多数の活火山があることを知り、火山災害から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

①様々な火山災害の種類があり、気象庁が活火山を監視していること、危険性が高い47の火山は24時間体制で監視していることを知る。

②火山災害から身を守る方法を学ぶ。火山活動が活発になると噴火警報が出されるので、テレビやラジオの最新の情報を確認することの大切さを知り、活用できるようにする。

3. 展開 (10 分)

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入・展開 (7分)	①火山について学ぶ。 火山災害にはどのようなものがあるのか理解する。	●DVDのA-13を見せる。 【火山災害の特徴】 ・火山が噴火すると、溶岩、高温のガス、火砕流などで大きな被害をもたらす。 ・火山を監視している気象庁から、噴火警報が出たらすみやかにそれに従う。 ・噴火していなくても、有毒なガスが噴き出していることもあるので注意する。
	②火山災害が起こったらどうするかを考える。	▼自分の住んでいる地域の近くで活動する可能性のある火山があるか、確認してみる。ある場合は、それが噴火した場合どうなるかも考えてみる。
まとめ (3分)	③警報が出たらすぐに避難する。普段から危険な場所には近づかないことを確認する。	▼火山の近くの学校では、火山に対する慎重な行動が必要であることを理解する。 ▼火山のない地域の生徒も、旅行や引っ越しなどにより、無関係ではないことを理解させる。



災害に備える

中学・社会 中学・理科 中学・保健 中学・総合 中学・特活
高校・公民 高校・理科 高校・保健 高校・総合 高校・特活

1. プログラムの趣旨

災害には日頃の備えが重要である。日頃の備えを多面的に学ぶことで、災害から自分のいのちは自分で守ることを意識させる。学んだ知識を家庭や地域社会で活かすことができる。

2. ねらい

- ① 災害に対する日頃の備えについて学ぶ。
- ② 正しい情報を入手することが生き抜くためには役立つことを学ぶ。
- ③ 大災害の時は、地域の助け合いが重要なことから、地域の避難訓練などに積極的に参加することや、コミュニケーション能力を高めておくことが重要であることを知る。

3. 展開（50分）

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	①「災害」のことばの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●「災害」にはどんなものがあるか話し合い、DVDのA-0、A-1を見せる。 ▼すでにこのチャプターを見ている場合は省略し、前回のふりかえりを行う。
展開	②災害への備えについて学び、災害に対しては、日頃の備えが大切であることを学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDのA-14、A-15、A-16、A-17、A-18を見せる。 【家の中の危険に備える】 <ul style="list-style-type: none"> ・家具や家電にストッパーをつけたり、倒れても影響が少ない場所に移動する。 ・部屋の中に靴やスリッパを用意する。 ・日頃から家の中の何が危険いか、どこが安全かを家族で話し合う。 【家庭での備蓄をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こって救助が来るまで目安は3日間。3日間生きられる備えが必要。 ・自分用の避難バッグを用意し、無理なく持てる重さにおさえ、すぐに持ち出せるところに置いておく。 ・避難が最優先される津波や洪水においては、モノを置いて避難し、いのちを守ることが重要。 【家庭で事前に話し合う】 <ul style="list-style-type: none"> ・どこに集合するかを決めておく。 ・ハザードマップなどを見ながら、一時的に避難する「避難場所」と長期的に避難する「避難所」を確認しておく。 ●「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート7を配付する。
【ワークシート7】 災害に備えて、どんな準備をしていますか？		
(35分)	③災害への備えの重要性を理解する。 災害に備えて、家庭であらかじめ備蓄をしたり、危険を話し合ったりすることが必要であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ▼このワークシートは、この場で記入して回収するのではなく、家に持ち帰り、家族と話し合ってから後日提出するものであることを説明する。 ▼その際に、ただワークシートに記入するのではなく、実際に防災への備えを考えて備蓄などを行うように薦める。
まとめ (5分)	④防災への意識を高め、普段から災害を想定した備えを行うことを確認する。 ワークシートを持ち帰り、家族で話し合いをさせることで防災の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ▼教師が、自分の家で行っている備えなどを説明し、家庭でのワークシートの取り組みがしやすくなるようにする。 ▼自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

年 組 番 名前



災害に備えて、 どんな準備をしていますか？

いつ来るか分からない災害に備えて、家族で話し合い、一人ひとりの避難バッグを用意するなど、災害への準備をしてみましょう。

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

<p>貴重品</p> <p><input type="checkbox"/> 現金（小銭をふくむ）※公衆電話用に10円玉、100円玉も</p> <p><input type="checkbox"/> 印鑑</p> <p>※以下の2つは、現物を持ち出せなかった場合に備えて、コピーを入れておく。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康保険証</p> <p><input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの（学生証、パスポートなど）</p> <p><input type="checkbox"/> 予備の眼鏡</p> <p>情報収集用品</p> <p><input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器をふくむ）</p> <p><input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（予備電池をふくむ）</p> <p><input type="checkbox"/> 家族の写真（はぐれた時の確認用）</p> <p><input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記用具</p>	<p>食料・飲料</p> <p><input type="checkbox"/> 非常食</p> <p><input type="checkbox"/> 飲料水</p> <p>服装・身の回り品</p> <p><input type="checkbox"/> ヘルメット</p> <p><input type="checkbox"/> 懐中電灯（予備電池をふくむ）</p> <p><input type="checkbox"/> 笛やブザー（音を出して居場所を知らせるもの）</p> <p><input type="checkbox"/> 万能ナイフ</p> <p><input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ</p> <p><input type="checkbox"/> マスク</p> <p><input type="checkbox"/> ビニール袋</p> <p><input type="checkbox"/> アルミ製保護シート</p> <p><input type="checkbox"/> 毛布</p> <p><input type="checkbox"/> スリッパ</p> <p><input type="checkbox"/> 軍手</p>	<p>衛生・健康のためのもの</p> <p><input type="checkbox"/> マッチかライター</p> <p><input type="checkbox"/> 給水袋</p> <p><input type="checkbox"/> 雨具（レインコート、長靴など）</p> <p><input type="checkbox"/> 簡易トイレ</p> <p><input type="checkbox"/> 救急セット</p> <p><input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬</p> <p><input type="checkbox"/> タオル</p> <p><input type="checkbox"/> トイレットペーパー</p> <p><input type="checkbox"/> 着替え（下着をふくむ）</p> <p><input type="checkbox"/> ウェットティッシュ</p> <p><input type="checkbox"/> 生理用品</p> <p><input type="checkbox"/> 歯みがきセット</p>
---	---	---

②上のリストのほかに、自分や家族が必要だと思うものを書きましょう。

③家族と相談して、集合場所や約束ごとなど、決めておくべきことを、書きましょう。

ワークシート回答例

ワークシート7「災害に備える」

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

<input type="checkbox"/> 現金（小銭をふくむ）※公衆電話用 に10円玉、100円玉も	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> マッチかライター
<input type="checkbox"/> 印鑑 ※以下の2つは、印鑑を持ち 出せなかった場合に 備えて、つばいを入 れておく。	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 防水袋
<input type="checkbox"/> 健康保険証	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 雨具（レインコート、長靴など）
<input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの（学生証、 パスポートなど）	<input type="checkbox"/> 懐中電灯（予備電池をふくむ）	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ
<input type="checkbox"/> 予備の銀貨	<input type="checkbox"/> 缶やブザー（音を出して居場所を 知らせるもの）	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器をふくむ）	<input type="checkbox"/> 万能ナイフ	<input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（予備電池をふくむ）	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> タオル
<input type="checkbox"/> 家族の写真（はぐれた時の確認用）	<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> トイレ用ペーパー
<input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ	<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> 着替え（下着をふくむ）
<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> アルミ製保護シート	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
	<input type="checkbox"/> 毛布	<input type="checkbox"/> 生理用品
	<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 飲みがきセット
	<input type="checkbox"/> 軍手	

②上のリストのほかに、自分や家族が必要だと思うものを書きましょう。

例：普段つかっている薬、ぜんそくの吸入器、（冬の場合）防寒具など

③家族と相談して、集合場所や約束ごとなど、決めておくべきことを、書きましょう。

例：避難所である〇〇小学校に集合する

災害後、3日間はできるだけ避難所から動かない

指導のポイント

このワークシートは家に持ち帰って記入してもらう必要があります。後日回収し、目を通した後に返却して家で保管するように指導してください。また、後日の提出を求めず、家庭での話し合いを薦めるなどの方法も考えられます。



※イメージです。

災害の経験から未来へ

DVD の C - 1 「災害の経験から未来へ」を生徒に見せたあと、ワークシート 8 を配付し、感じたこと、考えたことを自由に記入させましょう。ボランティアについても指導し、自分たちにできることは何かを考えさせるようにします。

また、被災地の先生からのメッセージを読み、先生自身も災害から「いのちをつなぐ」ことについて、今一度考えてみてください。

被災された先生からのメッセージ

『自分の苦しみや悲しみはいつか誰かを救う力になる』と教えてくれた人がいます。

あの日、私は生徒のいない学校で司書の先生と逃げ遅れました。嘘のような揺れの中、頭をよぎったのは「避難訓練で何を習った?!!」というものでした。そして長い揺れの間ずっと、机の下で怖いと叫び続けていました。幸い学校が倒壊しなかった為助かることができました。そして人が、想像することもできないような事に遭遇した時、やはり訓練をしておく事が自らのいのちを救うことに繋がるのではないかと思います。

そしてあの日。私は教え子を亡くしました。土砂に埋もれ、お姉さんと手を繋いだまま先に旅立ってしまった彼女の笑顔を、忘れずにちゃんと覚えていようと心に決めています。そして学校は、大切な子どもたちに勉強を教えるだけではなく、そのいのちも預かる場所であるということを初めて「実感」したのもあの震災でした。

震災後は、保護者の許可を得られた生徒たちと一緒に避難所ボランティアのお手伝いをしました。中学生や高校生は社会の中で誰かの為に行動できる多くの力を持っています。

倒壊した塀や家財道具の片づけ、力仕事、高齢の方宅の雪かき、親が忙しい子どもたちの遊び相手等。彼らが日頃からもっと地域に出て行く大切さも感じました。自分のいのちを守ることができれば、誰かに手を差し伸べることもできるのです。このボランティアで学んだことがあります。『被災者』といつまでも言われるのは却って傷つくこと。中高生が元気な挨拶をするだけで子どもや高齢の方々は喜んでくださること。避難所等では何でもボランティアがしてしまうのではなく、ご本人のすることはして頂くこと。意見を聞くこと。そして、どんな時でも人間を救うのは人間の持つ温かい心であり行動であるということ。いのちの大切さを、先生方の言葉で伝えてくださることが、未来を語る大人がいて、生徒たちと共に未来を考える時間があることが大切なのではないのでしょうか。

最後に、この多くのいのちを思う教材を手にしてくださりありがとうございました。

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員
福島県立白河旭高等学校
シェルパ愛子

©日本赤十字社

◀津波によって陸地まで流されてきた船。



▶がれきの中を歩く岩手県山田町の子どもたち。



©日本赤十字社

年 組 番 名前

いのちをつなぐために

① 「災害の経験から未来へ」 のどんな場面が印象に残りましたか？

② 自分たちにできることは何でしょうか？

③ あなたの住んでいる地域で行われている防災の取り組みを書いてみましょう。

授業で使えるプログラム集

I 授業で使えるグループワーク素材

- I - 1 あなたの大切なもの (本冊子・CD-R収録)
- I - 2 みんなでわけよう (本冊子・CD-R収録)
- I - 3 いのちを守るための気づき (本冊子・CD-R収録)
- I - 4 災害時シミュレーション (本冊子・CD-R収録)
- I - 5 防災コミュニケーションワークショップ (BCW) (本冊子・CD-R収録)
- I - 6 自分だったらどうする (本冊子・CD-R収録)

II 授業で使える作文素材

- II - 1 ありがとう (本冊子・CD-R収録)
- II - 2 五へえさんへ (CD-R収録)
- II - 3 元気と笑顔／ぼくの夢 (CD-R収録)
- II - 4 大震災とこれから (CD-R収録)
- II - 5 あなたはそこにいなさい (CD-R収録)
- II - 6 あなたはそこにいなさい (CD-R収録)
- II - 7 小さくなった母 (CD-R収録)
- II - 8 あの日、そして今 (CD-R収録)
- II - 9 命、紙一重／しん災で学んだこと (CD-R収録)
- II - 10 助かった命 (CD-R収録)
- II - 11 過去の記憶 (CD-R収録)

III 授業で使える写真素材

- III - 1 安全に避難しよう (CD-R収録)
- III - 2 避難所でのストレスを考えてみよう (CD-R収録)
- III - 3 ボランティアの心がまえ (CD-R収録)
- III - 4 彼女について考えてみよう (CD-R収録)
- III - 5 あなたができること (本冊子・CD-R収録)
- III - 6 困っていることはなんだろう (CD-R収録)
- III - 7 未来をつくるために (CD-R収録)
- III - 8 ストーリーを完成させよう (CD-R収録)

「あなたの大切なもの」

対象／中学生用・高校生用

小学生用（4～6年）は付属CD-Rに収録しています

1. プログラムの趣旨

防災教育では、災害から「いのち」を守ることを学ぶ。ここでは、「いのち」について改めて見つめ直し、「いのち」を未来につなぐことを考える機会とする。

2. ねらい

日常生活の中で何気なく過ごしていると、大切なものを考えることがなくなり、いざという時、自分を見失い混乱することがある。常に、災害時のことを頭の中に入れておき、自らのいのちと家族、地域住民のいのちを守るためにも、自分が今できることを考える。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (8分)	6人のグループ作り。 ・机を寄せてグループ作り。 ①「二者択一」について話し合う。	プリントを配付。 ・相手の意見を否定しないことを伝える。 ・違う意見を互いに受け容れるようになる。
展開 (37分)	②「あなたの大切なもの」について個人で考える。 ・プリントに記入しながら考えをまとめる。 ③グループの中で互いの意見を交換し、分かち合う。 ・グループの話を聞きながら、意見をプリントに記入し意見交換し共有する。 ・意見や感想を述べ合う。 ④グループ内の意見交換のあと、更に自分の考えを整理する。 ・想像力や思いやりや生活力等、生きる上での必要なことを、他者の意見を参考にしながら、何が大切かを考える。 ⑤地震の後の避難所という具体的な場面を提示し、更に具体的に考えを深める。 ・相手に意見を聞き、自分の考えを整理する。 ⑥グループ内で話し合う。 ・互いの話を聞き、共感し違いに気づき、考えを深めるようにする。	・机間指導で生徒の様子を確認し、今思っていることを素直に表現するよう助言する。 ・相手の意見を聞き、自分の考えを整理させる。 ・具体的なことから心構えなど、形のないものを含めてのことであることを助言する。 ・意見や感想を述べ合う。相手の意見を聞き、自分の考えを整理させる。
まとめ (5分)	本時のふりかえり。 ⑦今日学んだことをプリントに記入する。	・ふりかえらせ、考え学んだことをまとめさせる。

年 組 番 名前

「あなたの大切なもの」

①下記の二者択一についてどちらが大切だと思うか、自分で選択したものに○を付けましょう。そのあとで、グループで話し合ってみましょう。(8分)

サッカー か 野球

都会 か 田舎

コーヒー か お茶

犬 か 猫

テレビ か ラジオ

山 か 海

メール か 電話

家庭 か 仕事

夏 か 冬

社長 か 副社長

男 か 女

ビデオ か 映画

優しさ か 厳しさ

お金 か 夢

②あなたの大切なものは何ですか？ 次の中から大切なものに上から5番目まで順位を付け、理由を書きましょう。(自分の意見) (5分)

順位	大切なもの	理由
	夢	
	お金	
	家族	
	趣味	
	勉強・仕事	
	命・健康	
	携帯	
	友人	

③グループの中で、大切なものの順位と理由を話し合しましょう。下の表には他の人の順位を聞いて番号を書きましょう。(グループの意見) (12分)

自分の順位	大切なもの							あとで思った 順位
	夢							
	お金							
	家族							
	趣味							
	勉強・仕事							
	命・健康							
	携帯							
	友人							

メモ：(理由を聞いておもしろかったもの、ためになったもの、意外なものなど)

④グループ内で話を聞いて、自分の考えを整理し、「あとで思った順位」部分に順位を書き入れましょう。(5分)

- ⑤大地震があり、今あなたは避難所にいます。あなたの大切なものを守るために、何が必要でしょうか。(5分)

地震発生 1 か月前

地震当日

- ⑥⑤についてグループ内で話し合ってみましょう。(10分)

- ⑦この時間を通して、自分で考えたこと、感じたことをまとめましょう。(5分)

「みんなでわけよう」

対象／中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

それぞれが持っている情報に基づき、食料を分担する活動を通して、いろいろな立場に立って考える力を身に付ける。

2. ねらい

「条件」「食料」「家族構成」の書かれた情報の中で、役割を分担する活動を行い、いろいろな立場に立って物事を考える力を身に付けるとともに、活動をふりかえる中で、それぞれのよさや話し合いを行う時の工夫点等に気づく。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	課題の確認。 ①「条件」「食料」「家族構成」の情報カードをそれぞれ人数分用意。1枚ずつ封筒に入れる。この時、「条件」「食料」「家族構成」は、どの組み合わせを入れてもよい。 ②それぞれのグループに「情報カード」の入った封筒を配布し、それを開けてグループごとに何をしたらよいのかを話し合わせる。	▼6名～7名のグループをつくる。 ▼「おにぎり14個」「ペットボトル大3個」「ペットボトル小3個」「パン7個」のイラストと、ハサミ1本を袋に入れておく。 ・以下のことを生徒に確認する。 ▼グループワークの目標は、食料を上手に分配すること ▼食料の数、食料を分配するために使うことができるものはカードに記入してあること ▼みんなの情報を集めて、グループワークを行うこと ▼封筒は、スタートの合図をするまであけてはいけないこと ▼それぞれの情報は口頭で伝えること ▼条件に書いてある、伝えることが禁止されている情報は、他のグループメンバーに伝えないこと ※6名で行う時は、条件②、食料①、家族構成②を除いて行います。
展開 (30分)	みんなで分けよう。	・スタートの合図をする。 ・机間指導をしながら、様子を十分観察する。 ・30分後に終了を伝える。
まとめ (15分)	ふりかえりと発表。	・ふりかえりシートを使って活動をふりかえらせる。 ・グループごとにどのように配分したかを発表させる。 食料を単に均等に分担するのではなく、情報カードの状況を考えたうえで分けることができたかを評価する。

■条件

条件

1

あなたの住んでいる地域で地震が起こりました。災害用伝言ダイヤルを使って確認したところ、家族全員が無事であることを確認できました。あなたはこのグループワークで話し合われた内容をメモする役割があります。

条件

2

地震で道路が崩れており、あなたたちはこの避難所で少なくとも1週間は生活する必要があります。みんなで話し合いをして、食べ物や飲み物をうまく分けてください。そのためにあなたは他のグループのメンバーに、できるだけ多くの提案をしてください。ただしできるだけ多くの提案をするという指示を受けていることは、誰にも言うてはいけません。

条件

3

あなたたちの目標は、持っている食料を出し合い、うまく分け合うことです。あなたは、はじめの15分間、自分からは話をしないでください。誰かに話しかけられた時だけ、話をしてください。ただしあなたが15分間自分から話をしないという指示を受けていることは、誰にも言うてはいけません。

条件

4

少なくとも2日間は食料が届かないという連絡が入りました。あなたの役割は、司会をして全体をまとめることです。ただし司会をするという指示を受けていることは、誰にも言うてはいけません。このグループワークで利用できるものは筆記用具（鉛筆1本と紙1枚）だけです。

条件

5

あなたの役割は、できるだけいろいろな提案をすることです。どんな提案でもかまいません。ただし提案をする指示を受けていることは、誰にも言うてはいけません。また、あなたは、できるだけ人の意見を認める発言をしてください。

条件

6

あなたの役割は、みんなに残り時間を告げることです。食料は、袋に入っています。グループワークが始まったら、あなたは食料カードに書かれた食料を袋から取り出して、同じグループのメンバーに必要な数を渡してください。

条件

7

自動販売機が停電で止まり、お店が遠くにあるため、食べ物や、飲み物はあなたたちが持っている物だけです。あなたたちに与えられた時間は、先生がスタート合図をしてから、30分間です。食料を分ける時は、ハサミで切って分けてください。

■食料

※イラストのデータは付属 CD-R に収録されています。

食料

① あなたが持っているものは、コンビニで購入したおにぎり 3 個です。

食料

② あなたは、食べるものを何も持っていません。2 リットルのペットボトルの水を 2 本持っています。

食料

③ あなたは、500 ミリリットルのペットボトルのお茶を 2 本持っています。

食料

④ あなたは、おにぎりを 1 個と 500 ミリリットルのペットボトルのお茶を 1 本持っています。

食料

⑤ あなたは、おにぎりを 6 個持っています。おにぎりを持っていることは、このグループワークが始まって 15 分間は誰にも話してはいけません。15 分間は、何も持っていないと言ってください。

食料

⑥ あなたは、コンビニで購入したおにぎりを 4 個持っています。鮭、辛子明太子、昆布、梅干を 1 個ずつです。あなたは 12 時間以上何も食べていないので、とてもお腹がすいています。

食料

⑦ あなたは、パンを 7 個持っています。4 個は賞味期限がお昼までです。3 個は、賞味期限が明日までです。それと 2 リットルのペットボトルのスポーツ飲料を 1 本持っています。

■ 家族構成

家族構成

- ① あなたは、6歳の弟を連れていきます。弟は、あなたと一緒にこの避難所まで逃げてきました。

家族構成

- ② あなたは、一人でこの避難所に逃げてきました。

家族構成

- ③ あなたは、けがをした両親と一緒に避難所に来ました。

家族構成

- ④ あなたは、2人の妹を連れて避難所に来ました。4歳と6歳の妹です。

家族構成

- ⑤ あなたは、あなたの祖母一人を連れて、この避難所に逃げてきました。

家族構成

- ⑥ あなたは、10歳の弟とお母さんと一緒に逃げてきました。お母さんは来月、子どもが生まれる予定です。

家族構成

- ⑦ あなたは、祖父母の2人とともに逃げてきました。

ふりかえりシート

①あなたは、このグループワークで積極的に発言しましたか。

②このグループワークを行う中で、誰のどんな発言が素晴らしかったですか。具体的に記入してください。

③このグループワークを通して、意見をまとめるには、どのようなことが大切だと感じましたか。

④避難所で食料を分け合うとしたら、どんなことに気を配るとよいと思いますか。

⑤話し合いをする時、どんなことに注意するとよいと思いますか。

⑥その他、感じたことを記入してください。

「いのちを守るための気づき」

対象／小学生用・中学生用・
高校生用

1. プログラムの趣旨

- ・いのちを守るためのマークを知ろう。
- ・いのちを守るためのマークに込められた思いに気づこう。

2. ねらい

- ・町の防災に関わる表示や看板について関心をもつことができる。
- ・日頃から意識して生活することで、町にはいのちを守るためのヒントがあることに気づく。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	<p>① PowerPoint に表示されたものが会場内にいくつあるか数える。</p> <p>② PowerPoint に表示されたマークの意味を考える。 ・それぞれに意味があることを理解する。</p> <p>③ 本時のねらいを確認する。 いのちを守るマークを見つけよう</p>	<p>・赤いもの、丸いもの等色や形に注目させることで、意識すると今まで見ていたものが違って見えることを実感させる。</p> <p>・身のまわりにもたくさんの表示があることに気づかせ、マークの意味について関心をもてるようにする。</p> <p>・絵や簡単な言葉だけで表していることが分かるようになっていることに気づくことができるようにする。</p>
展開 (10分)	<p>④ それぞれの防災マークが表している意味を考える。</p> <p>⑤ 防災マークにはどのような思いが込められているかを考える。</p>	<p>・防災の意味を説明し、様々なマークの中から防災マークに目を向けさせる。</p> <p>・マークを作った人の気持ちやその場所にできた理由を考えることで、マークの重要性に気づくことができるようにする。</p>
まとめ (5分)	<p>⑥ まとめをする。 防災のマークはいのちを守るためのメッセージである。</p> <p>⑦ 次時の学習について考える。</p>	<p>・気づくためには意識して見る大切であることを確認する。</p> <p>・これから自分の町にあるマークを調べたり、必要に応じて作成していったりしていこうとする気持ちをもてるようにする。</p>

※本プログラムは、付属 CD-R に収録された〈Power Point データ〉を使います。

※いのちを守るマーク例



非常口のピクトグラム



津波注意の標識
(JIS Z 8210 : 2009)



津波避難ビルの標識
(JIS Z 8210 : 2009)



お手洗いのピクトグラム
(JIS Z 8210 : 2002)



携帯電話禁止のピクトグラム
※



フラッシュ撮影禁止のピクトグラム
※



飲食禁止のピクトグラム
※



障害物注意のピクトグラム
※



動物注意の標識
(協力：沖縄県)



動物注意の標識
(協力：沖縄県)



とびだし注意の標識
(協力：沖縄県)



非常口のピクトグラム



津波注意の標識
(JIS Z 8210 : 2009)



津波避難場所の標識
(JIS Z 8210 : 2009)



津波避難ビルの標識
(JIS Z 8210 : 2009)



津波避難ビルの標識
(協力：高知市)



津波避難場所の標識
(協力：高知空港ビル株式会社)



海拔表示板
(協力：伊勢市)



避難場所の標識
(協力：鳥取市)



避難場所の標識
(協力：静岡市)



津波避難ビルの標識
(協力：函館市 ホテル函館ロイヤル)

※公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

「災害時シミュレーション」

対象／小学生用（4～6年）・
中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

災害を想定したシミュレーション（模擬的な体験）を通して、自分のこととして捉えることで、想像力、考える力を養う。

2. ねらい

避難を伴う津波災害、洪水等において、避難する際に、持っていくモノは、人・家族によって異なり、事前に準備することが大切である。そして、準備ができていない場合は、モノを持っていくことよりも、いのちを守ることを最優先に、避難することが重要であることを学ばせたい。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	(Power Point にて進める) ①沈黙の時間（190 秒） （目を閉じ、私語はしない）	・グループ毎に机を寄せる。 ・沈黙している時間を使って、シミュレーションに必要なアイテム（スーツケース、所持品のイラスト）が入った封筒を、グループ毎に1セットを配付する。
展開 (25～30分)	(Power Point にて進める) ②避難に必要なモノを考える。 ③選んだモノについて話し合う。 生きるために必要なモノを考える。	・想定場所や時刻等の状況は、個別に設定する。 ・グループ毎で活動する。 ・活動時間は190秒とし、活動中に、「時間がないよ!」「急いで!」などの声かけによって緊迫した状況を与えることができる。 備考 ・アイテムが用意できない場合は、選ぶ個数（6個ほど）を決めて展開することも可能。 ・なぜこのモノを選んだか、なぜこのモノを選ばなかったかを発表する。（プリント、模造紙、ふせん紙などを使って考えをまとめることも可能）
まとめ (15分)	④まとめをする。	・沈黙の時間を発表させる。 ・沈黙の時間と活動の時間は、同じ190秒であったこと、時間の感覚は、その時の状況によっても異なって感じることを伝える。 ・東日本大震災の福島県いわき市小名浜では約190秒、地震の揺れが観測されたことを伝える。（震度6弱が観測され、震度4以上の揺れが約190秒続いた） ・人、家族によって、備えておくべきモノは違うことから、事前の準備と、事前に家族と相談しておくことが必要であることを伝える。 ・モノを持っていく準備ができていなければ、自分のいのちを守る（避難する）ことが、最も優先されることを伝える。 備考 ・DVDのA-15「命を守るための備え」（備蓄編）を視聴させてもよい。 ・小学生用（4～6年）、中学生用・高校生用の「ワークシート7」を併せて活用してもよい。

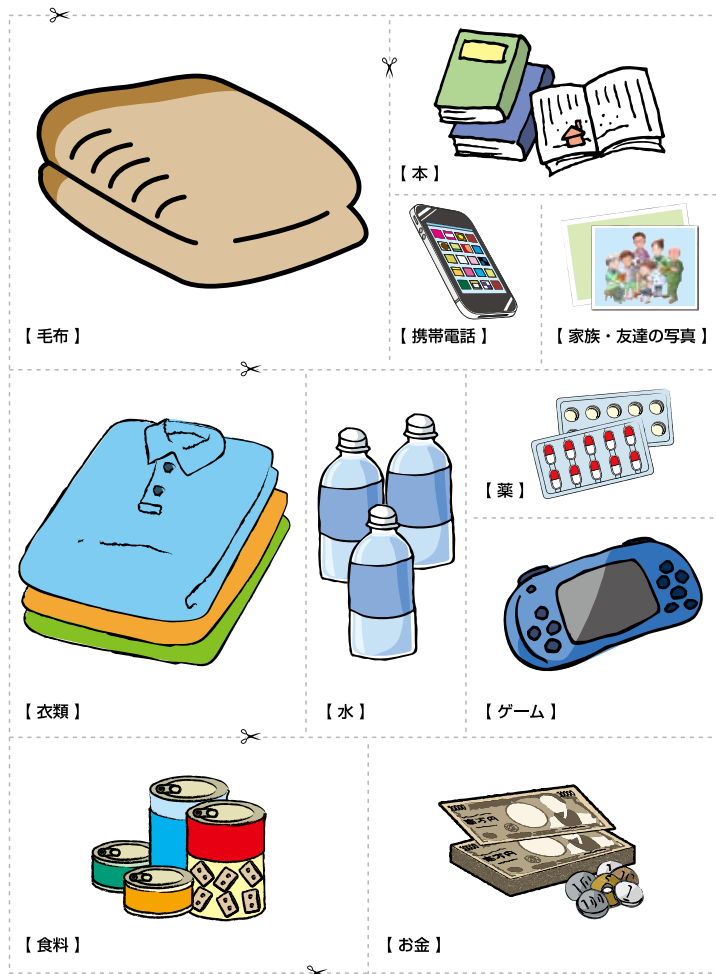
Q このスーツケースに入れて避難所に持っていく“モノ”を次の所持品から選んでください

選択条件：所持品はスーツケースの白枠に収まるものしか持ってはいけません。

《スーツケース》



《所持品》



※上記イラストは、付属 CD-R に収録されております。

「防災コミュニケーションワークショップ (BCW)」

対象／小学生用（4～6年）・
中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

コミュニケーション能力の大切さは「日常」に限ったことではない。ここでは、児童・生徒が「非日常」の災害時のコミュニケーション能力の大切さに「気づき」「考え」「実行する」ことについて学習する。

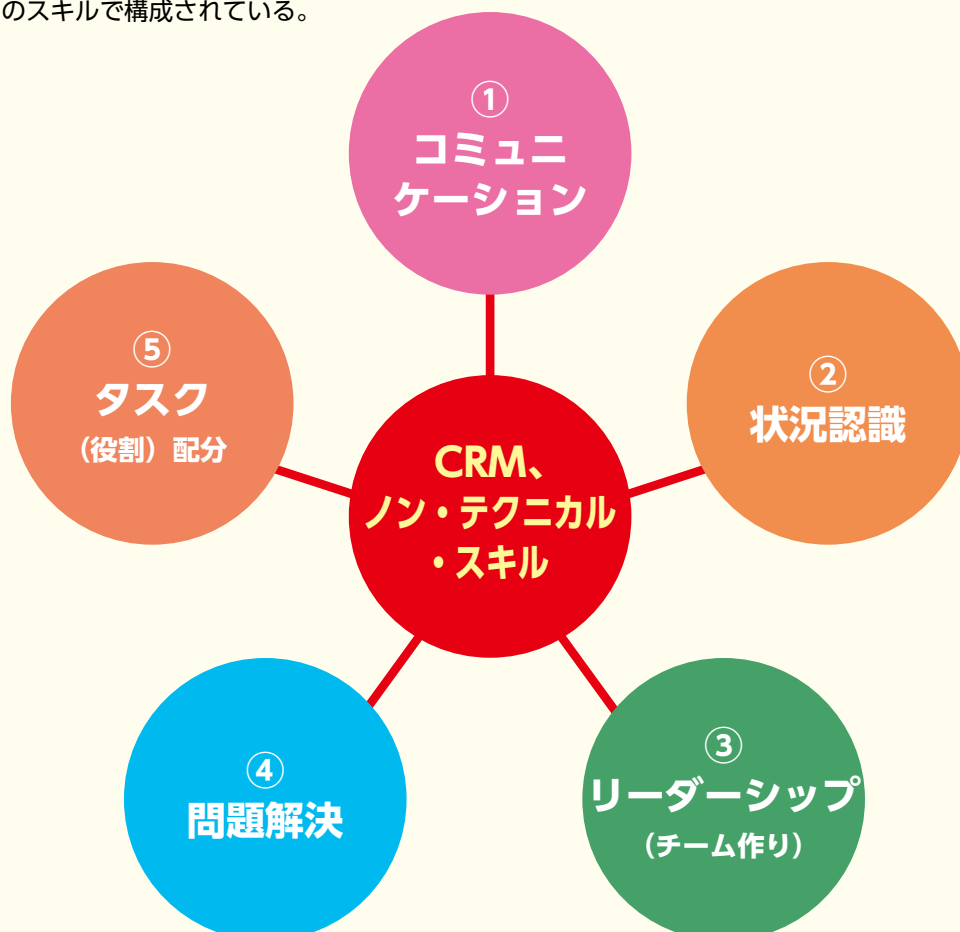
2. ねらい

災害時に「自分のいのちは自分で守る＝生きぬく力」はとても大事だが、自分のいのちを自分で守るためにはどのように行動すればよいのか。災害時には、まわりにいる人々が協力して問題解決をしていかなければならない。そこでこのプログラムでは、航空業界や医療現場で用いられている CRM、ノン・テクニカル・スキルの手法を取り入れることで、児童・生徒が生きぬく力を身につけることを目的とする。

● CRM（クルー・リソース・マネジメント）、ノン・テクニカル・スキル

CRM（クルー・リソース・マネジメント）とは、航空業界において開発された手法で、積極的なコミュニケーションにより情報交換をおこない、利用可能なあらゆる資源を活用して、より適切な意思決定を支援し、チームが協力して、エラーの発生を少なくしようとする活動と技術を言う。

パイロットの操縦技術はテクニカル・スキルと呼ばれ、CRM に活用される技術は、ノン・テクニカル・スキルと呼ばれ、次の 5 つのスキルで構成されている。



●各スキルの解説と災害時の活用法

①コミュニケーション

コミュニケーションは、すべてのスキルにつながる最も基本的なスキル。単に良好なコミュニケーションが求められているだけでなく、必要な情報をすべて共有するために、発言を躊躇する雰囲気はなくすることが求められている。災害時は特に、時間の限られた中で自分たちのいのちを守るために、様々な角度からの発言を適切に判断していかなければならない。意見を出し合える関係が重要。

②状況認識

状況を正しく認識するためには、すべての情報を共有する必要がある、意見を述べることを躊躇しない雰囲気が必要。特に災害時は知識だけでなく、なんとなく気づいたことや五感で感じたことを話題に取り上げ話し合うことが重要。また、状況を冷静に受けとめることも大切。

③リーダーシップ（チーム作り）

リーダーには誰もがなることができる。また、リーダーだけががんばるのではなく、メンバーも常にリーダーを助けるために活動しなければならない。すなわち、意見が食い違うことは当たり前で、異なった意見を押しさえつけることなく、時間以内に意思決定を行うことを第一に、メンバーが協力をする。これは災害時も同じである。なお、チームの活動には次のような視点が必要である。

- ①他者を支援、②対立を解決、③情報を交換、④活動を調整（みんながバラバラに動いていてはチームは機能しない）
- ⑤他者の活動をモニター（見習う）

④問題解決

完璧な解決法は簡単には生まれない。集団の問題解決・意思決定がうまくできないのは、すべての情報が出尽くしていないため、正しい状況認識ができていないためである。リーダーにはすべての情報を引き出すことが求められ、メンバーには気がついたことをすべて発言することが求められる。職位、年齢、経験、先輩後輩、知識のあるなしにかかわらず、下の者から上の者への意見の表明、間違いの指摘などが行いやすい雰囲気が必要。

また、集団の意思決定には時間がかかることが欠点。与えられた時間の中ですみやかに意見の食い違いを解消し、意思決定を行うことが求められる。判断して決行することが、災害時には重要。

⑤タスク（役割）配分

メンバーには、それぞれに少しずつ違った能力がある。能力に見合った役割が与えられ、与えられた役割をすべての人が全うすることがチームの活力になる。また重要なのは、能力のあるものは能力の劣るものを助け、力のあるものは力のないものを助け、チーム全体として最も効果的な協力体制を作ることである。

指導のポイント：グループ活動を中心に、プログラムに積極的に取り組むだけでなく、ふりかえりシートを通じて児童・生徒がCRM的観点に「気づき」、普段から「考え」、災害時に「実行」することが大切であることを学習する。

※**多数決を避ける：**児童・生徒は成長すればするほど、多数決の論理を利用して、判断しがち。しかし、このプログラムでは、メンバー一人ひとりの「気づき」の声をメンバー全体に伝えて、なるべく多くの選択肢の中から判断できるプロセスを大切に指導していく。

1. 竹ひごタワー (Courtesy of Peter Skillman Design)



概要

- ・4～5名がひとつのチームとなり、限られたアイテム（竹ひご、マスキングテープ、紙ねんど）のみを使ってタワーを作り、制限時間内に、机（もしくは床）からボール（紙ねんど）のてっぺんまでの位置の高さを競う。
- ・自立したタワーでなければならないことから、手を使って支えてはいけない。
- ・アイテムは、折って使っても、切って使っても可。また、アイテムはすべて使わなくてもよい。（勝敗には関係ない）
- ・ボール（紙ねんど）に竹ひごを乗せても、刺してもよい。ただし、ボール（紙ねんど）の形状は変えてはいけない。
- ・マスキングテープを机に貼ってタワーを支えることは可能であるが、児童・生徒の想像力を働かせるために最初から伝えてはいけない。

対象

- ・小学生（4～6年）から高校生まで（1チーム4～5名）が望ましい。

準備するもの

- （1チームあたり）
- ・竹ひご：10本（長さ360mm、径1.8mmが望ましい）×2（2回分）
 - ・マスキングテープ（手で切りやすいテープなら可）：900mm×2（2回分）
 - ・ボール：紙ねんど（約15g）
 - ・計測するもの（ストップウォッチ、メジャー）

展開（45～50分）

(5分)	・チーム決め、ルール説明 チームを決め、机をチーム毎に寄せ、ルールを説明（1チームに1枚、ルールシートを配る。ルールが見えないように裏にして配るとよい。ルールシートはCD-Rに収録） 中・高校生の場合は、配られたルールシートを自分たちで読み上げることで理解できるが、小学生の場合は、先生がルールシートを読み上げ、説明するとより分かりやすい。ルールの説明は1分ほど。そのあと質問時間を設ける。 ※事前に、2回行うことを言わない方が、より1回（目）に集中できる。
(10分)	・1回目（制限時間10分） 合図で一斉にスタートする。 チームから測定の声がかけられたら測定する。測定は2回までとし、測定されなければ、記録に残らない。 ※チーム毎にメジャーが用意できれば、チーム毎で測定も可。 ※ストップウォッチは、教壇等に置いて自分たちで時間を確認させるようにする。（時間の読み上げはしない）
(10分)	・ふりかえり 「ふりかえりシート」を配る。まずは個人で3分ほどふりかえり、残りの時間を使って、チーム毎でふりかえりを共有する。
(5分)	・支援と評価 1回目の様子、ふりかえりの状況を踏まえながら、次頁「ふりかえり」の評価ポイントを参考に、気になる点を伝える。
(10分)	・2回目（制限時間10分）
(5～10分)	・解説 次頁「解説」を参考に、ねらいを伝える。

※左記のものが用意できない場合は、新聞紙（1枚の半分）、マスキングテープ（900mm）、紙コップ（1個）、割り箸（1膳）に変えることも可能である。その際は高さを競うプログラムとする。

プログラム内容の反省でなく、CRM、ノン・テクニカル・スキルのふりかえりができるように、ふりかえりシートを児童・生徒に配付・記入させ、このプログラムで伝えたいことを指導する。

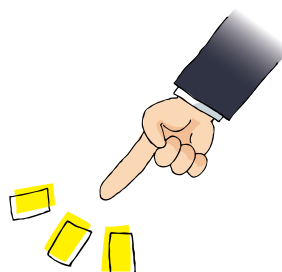
児童・生徒のふりかえりシートへの記入例	評価のポイント	該当する主な CRM ノン・テクニカル・スキルのポイント
課題を達成するためにメンバー間で話し合った。	メンバー全員で情報共有ができて いるか。	①コミュニケーション
課題を行いながらも、メンバーが 手を止めることなく、改善するた めの話し合いを続けられた。	作業を行いながらも意見交換を活 発に行い、改善しているか。	①コミュニケーション ④問題解決
メンバーの意見を聞くことがで きた。	メンバーに「ちょっと待って！」 などと声をかけられているか。	②状況認識
出てきた意見を言っぱなしでな く、取りまとめることができた。	意見の対立が起こった時にお互い の意見を聞いて対処しているか。	③リーダーシップ（チーム作り）
多数決をとるのではなく、お互い の意見を出し合って、納得する形 で進められた。	チーム全員が納得する形で進めて いるか。	③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
作戦会議でチームメンバーの意見 交換・共有の場にできた。	1 回目と 2 回目でよりよいやり方 に変えるために適切なプロセスで 決めているか。	①コミュニケーション ③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
自分がチームで果たす役割を自覚 し、できることをやった。	メンバーそれぞれが自分に与えら れた作業を協力的に行えているか。 仲間外れはいないか。	①コミュニケーション ⑤タスク（役割）配分
作戦会議でしっかり話し合えたの で、2 回目はチームワークがよく なった。	作戦決定の方法はスピードを重視 しているのか。プロセスを重視し ているのか。	④問題解決 ⑤タスク（役割）配分

解説

災害時には予想もできないことが次々に起こってきます。そのような状況の中で、意見を出し合える関係づくり、協力の大切さ、状況を冷静にとらえて、判断して決定していくことが大切です。たくさんの意見は、コミュニケーションによって生まれます。一人ひとりがそれぞれの立場からの意見を話すことが大事です。

このプログラムは、単にタワーの高さをチームで競うことが目的ではありません。タワーを作るまでのプロセスが大切なのです。避難所では、老若男女様々な人が一緒の場所で生活することになります。非日常の中で生活していくためにも、たくさんの話し合いが行われました。その中で託児スペースやサロンなどが生まれ安らぎの場が作られたのもその一例です。

2. ドローイング・チャレンジ



概要

- ・ペットボトルと水性マーカーで作った大きなペンをチーム全員の人差し指だけで支え、全員で息を合わせて模造紙に図形や絵を描く。

対象

- ・小学生（4～6年）から高校生まで（1チーム4～5名）

準備するもの（1チーム分）

【事前に用意しておくもの】

- ・ペットボトルに水性マーカーを差し込んでテープで固定して「ペン」を作る。（写真参照）



- ・円筒形の1.5Lペットボトル、水性マーカー（汚れのあと始末が楽）※ペットボト

ルは角やへこみがない炭酸飲料用の円筒形が適当。ない場合は、不公平にならないよう、ペットボトルの形をそろえて用意。対象者によっては、500mlのサイズにしてもよい。

- ・新聞紙、模造紙（半分）、テープ（新聞紙を敷いた机に、模造紙とペットボトルマーカーを固定するため）

展開（45～50分）

(10分)	・準備・ルール説明 <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒用の机をつなぎ合わせて、マーカーで汚れないように新聞紙を敷く。その上に半分に切った模造紙をテープで貼り、絵を描くキャンバスを作る。 ○もう片方の手は使ってはいけない（ペン、紙、机に触れないし、方向を指さしてもいけない） ○利き手の人差し指の先だけでペンを支える（第一関節より先だけを使う） ○指を曲げない ルールシートを配ってもよい。※ルールシートはCD-Rに収録。
(5分)	・1回目：5分間で1回目の図形を描く。 ※レベル分けについては下記参照のこと
(10分)	・審査ポイント、支援と評価 <ul style="list-style-type: none"> ①線がはみ出していないか、途切れていないか ②時間内で課題を終えたか ③みんなで協力して描いたか この3点について、自分たちが描いた図形を審査する。
(5分)	・2回目の問題を発表して作戦会議[次はどうすればうまく描けるかチームで話し合う]
(5分)	・2回目：5分間で「動物」を描く。 ※レベル分けについては下記参照のこと
(10～15分)	・ふりかえり・解説 ふりかえりシートを配って、ふりかえりを行う。 ※15分をふりかえりと解説に振り分けて指導する。

【対象学年に合わせた展開・アドバイス】
 このゲームは、描く対象によって難易度が変わる。

- レベルのめやす
- | | | | | |
|----|-----|---|-----|----------------------------|
| 初級 | 1回目 | ○ | 2回目 | カメ |
| | | | | ※1回目は問題の絵を提示してもよい。 |
| 中級 | 1回目 | ☆ | 2回目 | ウサギ、ライオンなど |
| 上級 | 1回目 | ☆ | 2回目 | イヌ、ネコなどより一般的な問題だと情報共有が難しい。 |

プログラム内容の反省でなく、CRM、ノン・テクニカル・スキルのふりかえりができるように、ふりかえりシートを児童・生徒に配付・記入させ、このプログラムで伝えたいことを指導する。

児童・生徒のふりかえりシートへの記入例	評価のポイント	該当する主な CRM ノン・テクニカル・スキルのポイント
課題を達成するためにメンバー間で話し合った。	メンバー全員で情報共有ができて いるか。	①コミュニケーション
課題を行いながらも、メンバーが 手を止めることなく、改善するた めの話し合いを続けられた。	作業を行いながらも意見交換を活 発に行い、改善しているか。	①コミュニケーション ④問題解決
メンバーの意見を聞くことがで きた。	メンバーに「ちょっと待って！」 などと声をかけられているか。	②状況認識
出てきた意見を言いつばなしでな く、取りまとめることができた。	意見の対立が起こった時にお互い の意見を聞いて対処しているか。	③リーダーシップ（チーム作り）
多数決をとるのではなく、お互い の意見を出し合って、納得する形 で進められた。	チーム全員が納得する形で進めて いるか。	③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
作戦会議でチームメンバーの意見 交換・共有の場にできた。	1 回目と 2 回目でよりよいやり方 に変えるために適切なプロセスで 決めているか。	①コミュニケーション ③リーダーシップ（チーム作り） ④問題解決
自分がチームで果たす役割を自覚 し、できることをやった。	メンバーそれぞれが自分に与えら れた作業を協力的に行っているか。 仲間外れはいないか。	①コミュニケーション ⑤タスク（役割）配分
作戦会議でしっかり話し合えたの で、2 回目はチームワークがよく なった。	作戦決定の方法はスピードを重視 しているのか。プロセスを重視し ているのか。	④問題解決 ⑤タスク（役割）配分

解説

東日本大震災の検証の中で、子どもたちのいのちを守るためには、教職員間のコミュニケーションを促進し、職業、年齢、経験にかかわらず意見を述べやすく、間違いを指摘しやすい職場風土の醸成に努めることが大切であるとされました。東日本大震災では、避難所生活から仮設住宅や借り上げ住宅、集合住宅等へと生活様式が変化していきますが、それぞれの生活の中で、住みよい環境、助け合う環境をコミュニケーションの中でつくり上げていきました。青少年赤十字は「一人ひとりがリーダー」を目指して活動していますが、その場その場によって、いろいろな人がリーダーになり、みんなで協力していくことが大切です。

3. 救援物資を運べ！

概要

- ・ 備蓄倉庫から避難所まで、限られた道具を使ってより多くの物資を運ぶ。



対象

- ・ 小学生（4～6年）から高校生まで（1チーム4～6名）

準備するもの（1チーム分）

- ・ 救援物資：
大きめの皿①、輪ゴム 30 本、ビー玉 30 個、ゼムクリップ 75 個、ペットボトルのキャップ 6 個 ※数や形をそろえる。



- ・ 運ぶ道具：
大きめの皿②、ストロー 1 本、ひも（100mm）1 本、割りばし 1 膳（割って使ってもよい）、つまようじ 1 本、マグネット 1 個、紙（80mm × 100mm）1 枚



展開（45～50分）

(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム決め、スタートとゴールの設置、準備、ストーリーの紹介 <ul style="list-style-type: none"> ○ 備蓄倉庫と避難所の位置を決める。（距離は約 3m50cm） ○ 備蓄倉庫として大きめの皿①に救援物資を入れる。 ○ 避難所として大きめの皿②に運ぶ道具を入れる。 ○ 時間の管理を行う。 ○ ストーリーを紹介する。 <p>「災害が起きて多くの人が避難所に避難しています。着の身着のままで逃げてきているため、一刻も早く救援物資を運ばねばなりません。みなさんは救援物資を運ぶボランティアです。使える道具が限られています。チームで工夫をして早く運んでください」と伝える。</p>
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の配布、ルール説明 <p>道具を各グループに配り、ルールを説明する。ルールシートを配ってもよい。ルールシートは CD-R に収録。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 避難所の位置から運ぶ道具を持ってスタートすること。備蓄倉庫まで行き救援物資を再び避難所に持ち帰る。 ② 道具は一人にひとつしか使えない。片手で使うこと。もう片方の手は使えない。 ③ 救援物資は手で触れない。 ④ 途中で落とした救援物資は倉庫に戻す。（その時だけ手で触ってよい） ⑤ 制限時間は 5 分。運び終えるまでに要した時間を競う。
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 回目：合図で一斉にスタートさせ、時間が来たら終了させる。
(5～10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 判定～ふりかえり～作戦会議→観察者（他の教職員）をつけるとなおい。 <p>時間内に運び終えたチームのタイムを記録しておく。終了後、各チームで結果を確認させ、2 回目にむけて作戦を立てさせる。1 回目でよかったところ、もっと改善できるところを話し合わせる。</p>
(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 回目：合図で一斉にスタートさせ、時間が来たら終了させる。
(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえり・解説 <p>ふりかえりシートを配って、ふりかえりを行う。</p> <p>※ 15 分を、ふりかえりと解説に分けて指導する。</p>

ふりかえり

3. 救援物資を運べ！

プログラム内容の反省でなく、CRM、ノン・テクニカル・スキルのふりかえりができるように、ふりかえりシートを児童・生徒に配付・記入させ、このプログラムで本当に伝えたいことを指導する時間にする。

児童・生徒のふりかえりシートへの記入例

評価のポイント

該当する主な CRM ノン・テクニカル・スキルのポイント

課題を達成するためにメンバー間で話し合った。

メンバー全員で情報共有ができて
いるか。

①コミュニケーション

課題を行いながらも、メンバーが
手を止めることなく、改善するた
めの話し合いを続けられた。

作業を行いながらも意見交換を活
発に行い、改善しているか。

①コミュニケーション
④問題解決

メンバーの意見を聞くことがで
きた。

メンバーに「ちょっと待って！」
などと声をかけられているか。

②状況認識

出てきた意見を言いつばなしでな
く、取りまとめることができた。

意見の対立が起こった時にお互い
の意見を聞いて対処しているか。

③リーダーシップ（チーム作り）

多数決をとるのではなく、お互い
の意見を出し合って、納得する形
で進められた。

チーム全員が納得する形で進めて
いるか。

③リーダーシップ（チーム作り）
④問題解決

作戦会議でチームメンバーの意見
交換・共有の場にできた。

1回目と2回目でよりよいやり方
に変えるために適切なプロセスで
決めているか。

①コミュニケーション
③リーダーシップ（チーム作り）
④問題解決

自分がチームで果たす役割を自覚
し、できることをやった。

メンバーそれぞれが自分に与えら
れた作業を協力的に行えているか。
仲間外れはいないか。

①コミュニケーション
⑤タスク（役割）配分

限られた時間の中で自分たちの
チームの目指す方向を共有した。

作戦決定の方法はスピードを重視
しているのか。プロセスを重視し
ているのか。

④問題解決
⑤タスク（役割）配分

解説

困難な状況の中でも、うまく適応できる力をレジリエンスと言います。この困難な状況からの回復には、心のもちようの方が、これまでの経験よりも効果があると言われています。コミュニケーション能力は、そのレジリエンスの特徴を高めます。

震災後の復興のグラウンドデザインや、まちづくり構想等は、住民のみなさんのワークショップなどで創りあげられていますが、メンバーのコミュニケーションが深まるにつれて、よりよい計画になっているという例もあります。コミュニケーションによってチーム力が高まり、チーム力がよい判断を生み、いのちを守る行動へつながります。

年 組 番 名前

ふりかえりシート

①自分のことをふりかえってみよう (当てはまると思うところに○を付けてみよう)

自分の考えは 言えましたか？	\(^o^)/	(^_^)	(-_-)
みんなの意見を きこうとしましたか？	\(^o^)/	(^_^)	(-_-)
みんなで話し合いが できましたか？	\(^o^)/	(^_^)	(-_-)
みんなで意見を出し合って 決めましたか？	\(^o^)/	(^_^)	(-_-)

②チームのメンバーのよかったところを探してみよう

③感想（分かったこと、思ったこと）

年 組 番 名前

ふりかえりシート

①自分のことをふりかえってみよう

自分の考えを言う ことができましたか	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
他の人の意見を聴く ことができましたか	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
全員で意見を出し 合って決めることが できましたか	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった

②チームのメンバーのよかった言動を書き出そう (どんな場面で何を言ったか、どんな行動をとっていたかなど)

③感想

「自分だったらどうする」

対象／小学生用（4～6年）・
中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

様々な問題や課題について、自分のこととして置き換え、自分の考えや相手（他の）の考え（価値観）を知ること、自分の考えを見つめ直し理解を深める。

2. ねらい

実際にあった災害事例をもとに、災害という状況の中で、判断・選択しなければならない体験を通して、考える力、想像する力を養う。

3. 展開

※ ABC カードは、付属 CD-R に収録されています。

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	【ルール説明】 ① 5名がひとつのグループになる。(5名が難しいようであれば、ひとつのチームが奇数人数になるようグループを作ることが望ましい) ② 一人ずつカード（A、B、Cのカード各1枚）、ワークシートを配る。(ワークシートは、問題の数だけ配る)	・あらかじめグループ分けをしておくルール説明がスムーズになる。 ・正解を探すのではなく、自分ならどのような選択をするか、が大切であること、他者の意見をよく聞き、また自分の考えと向き合うことが大切であることをルール説明に加えるとよい。
展開 (10分×3題)	③ チームごとに配られた問題を、グループの代表者が読みあげる。まずは、個人で考える。考える時間は2分で、ワークシートに理由を記入する。(この時、自分の考えはまわりの人に教えるはいけない) ④ 自分が考えた答えの該当するカードを全員で一斉に開く。グループ内で自分の意見を述べ合う。 ⑤ 意見を述べ合ったあとの、最終的な自分の考えを記入する。	・グループワークが初めての場合、個人の考えを書く、話し合いをする時間は指導者の裁量で少し伸ばしても差し支えない。その場合は問題の数を減らしてもよい。 ・自由に話し合いがなされるよう、机間指導などで声かけをしながら促す。 ・設問を減らし、考える時間、意見を述べ合う時間を増やすことで、自分の考えや理解を深めることもできる。 ・カードC（その他）によって、考えの多様性を知ることができる。
まとめ (5～10分)	⑥ ふりかえり、やってみてどうだったかをワークシートに記入する。	・授業時間は45分、50分に対応する。 ・時間があれば感想などを発表させてもよい。 ・短い時間の中で選択を迫られ、選べとらなければならない場面があることも説明する。 ・多数派の意見が正しく、少数派の意見が間違っていることはない。少数の意見（他とは異なる意見）であっても、自分の意見を述べられること。また、他の意見を受け入れたうえで、自分の考えを改めて見つめ直し、述べることの大切さを伝えること。（意見が変わることは、負けではない。相手＜他人＞の考えに単に流されたのではなく、自分自身を深く見つめ直すことができる機会であることを伝える） ・災害に関する新聞記事等から、新たに設問を作成することも可能であること。また設問を児童・生徒自身が見つけ出し、制作することで、問題や課題発見の気づきを促すこともできる。 ・p93「自分だったらどうする」の活用にあたって、を参考に説明する。



この写真は、設問をイメージするものであり、設問内容とは直接関係ありません。

【設問】 震災で壊れた建物

あなたが住む町では、震災で多くの方が犠牲になりました。
震災の恐ろしさを後世に伝え、防災に役立てようと、建物を残そう
とする意見がある一方、あの日の恐ろしさを思い出して辛いから、
取り壊して欲しいという意見もあります。

自分なら…

A 建物を残す B 建物は残さない C その他

<p>■自分の考え</p>	<p>■他の人の考え</p>
<p>■最終的な自分の考え</p>	

■「自分だったらどうする」の活用にあたって

※冊子掲載以外の設問も、付属 CD－R に収録されています。

設 問	指 導 上 の 留 意 点 等	発 展
ゴミ拾い	例題として活用する。考えやすいように、ボランティア部と設定している。部活動（または、役割として決まっている係）であるから行わなければならないのか、気づいた人が行えばよいのではないのか。自分の日常生活と重ねて考え、話し合いをさせたい。	ボランティア部という設定がなくてもよい。
震災で壊れた建物	震災の爪痕の残る建物の扱いは、大きな議論となった。震災の記録として残すことで後世に継承し、災害への備え、防災の必要性を伝えたいという意見がある一方、震災で受けた被害や、辛い気持ちを思い出してしまうので、取り壊して欲しいという意見もある。大人でも難しい選択である。	立場をかえると考える視点も変わる。 ・住民の立場 ・行政の立場 ・その場所で亡くなった遺族の立場
避難所生活	慣れない不便な避難所生活は、大きなストレスを抱えることになる。その生活の中で、よかれと思って行っている行動も、他の人にとっては迷惑と感じられることもある。携帯電話の光がまぶしくて眠れない。歩く足音が床の振動となり気になって眠れない、などの事例があった。不安を抱え集団で生活する難しさを想像させ、また、生活するためのコミュニケーションの大切さに気づかせたい。	高齢者だったら、母親だったら、体調がよくなかったらなどと条件を変えて考えることも効果的である。
記念写真	震災後、たくさんの人々が被災地を訪れ写真を撮る姿が見られた。被害の様子を多くの人に知ってもらいたいという気持ちがある一方、その土地の人の無念さ、やりきれない気持ちの中で、写真を撮られることの辛さを理解させたい。カメラを持っている人に不快感を覚えたという事例がある。	自分の家を片づけてくれたボランティア、通りがかりのボランティアと設定を変えてもよい。
支援のお礼	被災校には、たくさんの支援物資が届けられた。善意のものであったが、被災された町では着られないような派手なデザインの衣類や使えないものがあつた。またお礼を求められることもあつた。（被災地では“お礼疲れ”という言葉も聞かれた）相手の状況をどのように思えばよいのか考えさせたい。	東日本大震災以後、再開のめどの立たない学校がまだ存在していることを想起させたい。
ボランティア	片づけなどの作業をしている人にどのように接するかは、ボランティアのニーズを考えるきっかけになる。これから子どもたちが行うボランティアの基本（ニーズに即したボランティア）について学ばせたい。	どのようにすることが相手の立場に立った、役立つボランティアなのか考えさせたい。

「ありがとう」

対象／小学生用

1. プログラムの趣旨

きくたさんがたった一人で地震の大きな揺れから体を守っている時の恐ろしさや、家族や親戚の手助けでいのちが守られたこと、大切な家族を失った悲しみから、いのちの尊さを考えさせたい。

2. ねらい

まわりの人々に支えられて生きている自分の生命の尊さを知り、力強く生き抜こうとする心を育む。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	<p>① いのちとはどのようなものかを考える。</p> <p>② 資料を読んで感想を発表し、話し合いの方向をつかむ。</p> <p>★いのちを大切にすることはどういうことか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちについて自分もっているイメージを交流し、自らもいのちをもっていることを認識させ、本時の学習価値について認識できるようにする。 ・感想をもとに本時のねらいの方向付けを図る。
展開 (30分)	<p>③ 「わたし」の行動や気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で帰っている時に地震にあって、どんな気持ちになったでしょう。 ・おじいさんやおばあさんを残して避難している時、どんなことを考えたでしょう。 ・家族に会えた時どんな気持ちがこみ上げてきたでしょう。 <p>④ 自分のいのちを大切にすることはどういうことか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帰り道に様々な危険があり、身の危険を感じた「わたし」に共感できるようにする。 ・足の悪い祖母を気にかけてつも祖父母を残し、隣人と避難する「わたし」の緊迫した状況を把握させる。 ・家族に会えた喜びと祖父母を失った悲しみを抱えた「わたし」がこれからどう生きていこうと考えているのかを考えさせる。 ・いのちの尊さの自覚を深めるため、学習前の自分と今の自分の考えを比べて考えたことを全体で交流する。
まとめ (8分)	⑤ 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にも深い愛情をもって大切にしてくれた人々がいることに気づかせ、困難にも負けずいのちを大切に、力強く生きようとする気持ちをもたせるようにする。

※作文：「ありがとう」 気仙沼市立鹿折小学校二年 きくた るみな

出典：「宮城県連合小学校教育研究会国語研究部会」編 作文宮城 60 号〈特別編〉『あの日の子どもたち』 2011.3.11 東日本大震災の記録集から

「ありがとう」

気仙沼市立ししおり小学校二年 きくた るみな

わたしのすんでいた家は、もとはま町にありました。とてもいい町でした。三月十一日金曜日。わたしは、一人で学校がえりの道を歩いていました。その日は、学校にのこってべん強してから帰ったので、一人で帰っていました。とつぜん、地しんがきました。前の日の地しんよりも、ずっと大きくて、ぐらぐらゆれ、わたしはこわくなってしゃがみました。

バキッバキッ、ガシャガシャン。

すごい音がしたので、まわりを見ると、電しんばしらがぐらぐらゆれて、たおれそうになっていました。どこかの家のガラスもわれて、とびちっています。電しんばしらの下の道ろが、ひびわれて、茶色い水がばあっと上の方にわき出ているのを見ました。

(どうしよう。この地しん、すごく大きい。)

しゃがみながらゆれるのがいつおわるのかまっていました。でも、なかなか、止まりません。こわかったけど、早くおうちへ帰りたくなって、少しゆれるのが小さくなったときに走っていました。とちゅうでなん回もゆれたので、しゃがんだり、走ったりをくりかえしながら、帰りました。家につくと、じいじとばあばがいました。またゆれがとまらなかったので、こわくて、ランドセルをおいてこたつにもぐりました。ばあばは、びょう気で足がわるくて、車いすにのっていました。じいじは、車のうんてんができません。となりにすむ、わたべさんたちが、たすけに来てくれたとき、ばあばは、トイレに入っていました。

「るみなだけ、先ににげろ。ランドセルばもってげよ。」

じいじは、わたしだけを先ににがしてくれました。わたべさんたちの松岩のしんせきの家にひなんしました。パパやママ、じいじやばあばともれんらくが、とれず、かなしい日がつづきました。わたべさんたちは、みんなとってもやさしくて、わたしにごはんを食べさせてくれ、いっしょにあそんでくれました。でも、夜になると家ぞくに会いたくなりました。

(みんなは、どうしているかな。パパとママ、たいがやこはく、じいじとばあばは、だいじょうぶかな。いつになったら会えるんだろう。)

三日目の夜は、がまんができなくなって、ないてしまいました。

しばらくして、ママたちがわたしをむかえにきました。ママとパパにあえたとき、本当にうれしかったです。ママは、ないていました。そのあと、ママのしんせきの家にいっしょに帰りました。そこで、弟のたいがと妹のこはくにもあえました。

でも、じいじとばあばは、そこにはいませんでした。まだ、二人が見つからないことを知りました。

パパとママは、毎日、毎日、ひなんじょや、したいあんちじょへ通って二人をさがしました。

一か月がすぎ、何日かしたあとで、じいじとばあばが見つかりました。

ばあばは、家の近くで見つかり、じいじも少しはなれたところで見つかりました。



ばあばは、びょう気で足がわるくてあまり歩けなかったけど、いつもにこにこして、みんなをわらわせてくれる人でした。

じいじは、りょうりが上手で、よくホットケーキやあさりバターを作ってくれました。つりにもつれて行ってくれました。じいじは、魚をつっても、帰りにはにがしてあげる心のやさしい人でした。



本当は、しんじゃったなんて思いたくないです。また、会いたいです。また、みんなでココスへ行ったり、あって話がしたいです。

天国のじいじとばあばへ

お元気ですか。るみなはとっても元気だよ。今は、かせつじゅうたくにすんでいるんだよ。家ぞくもみんな元気だよ。じいじが、さい後に、「ランドセル、もってげよ。」

と言ってくれたから、ランドセルはつなみにながされなかったよ。このランドセルは、ずっと大切につかうからね。

学校のべん強もがんばってるよ。家では、パパやママがいないときに、ごはんを作ってたいがやこはくに食べさせているよ。けんかをするこもあるけど、なかよくあそんでいるよ。さみしくなるときもあったけど、もうだいじょうぶだよ。二人のことはずっとわすれないからね。大人になったらやさしい人になれるようにがんばります。天国から見まもっててくださいね。じいじ、ばあばありがとう。

(指導 澤井ゆうこ)

「あなたができること」

対象／小学生用・中学生用・
高校生用

1. プログラムの趣旨

震災発生前、私たちは日常生活がそのまま続く、これが普通の生活だと考えていた。児童・生徒の多くは災害について何の危機感ももっていなかった。しかし、震災は想像以上の出来事であり、多くの被災者がいのちが助かったことに対して、喜びだけでなく苦悩を抱えた。

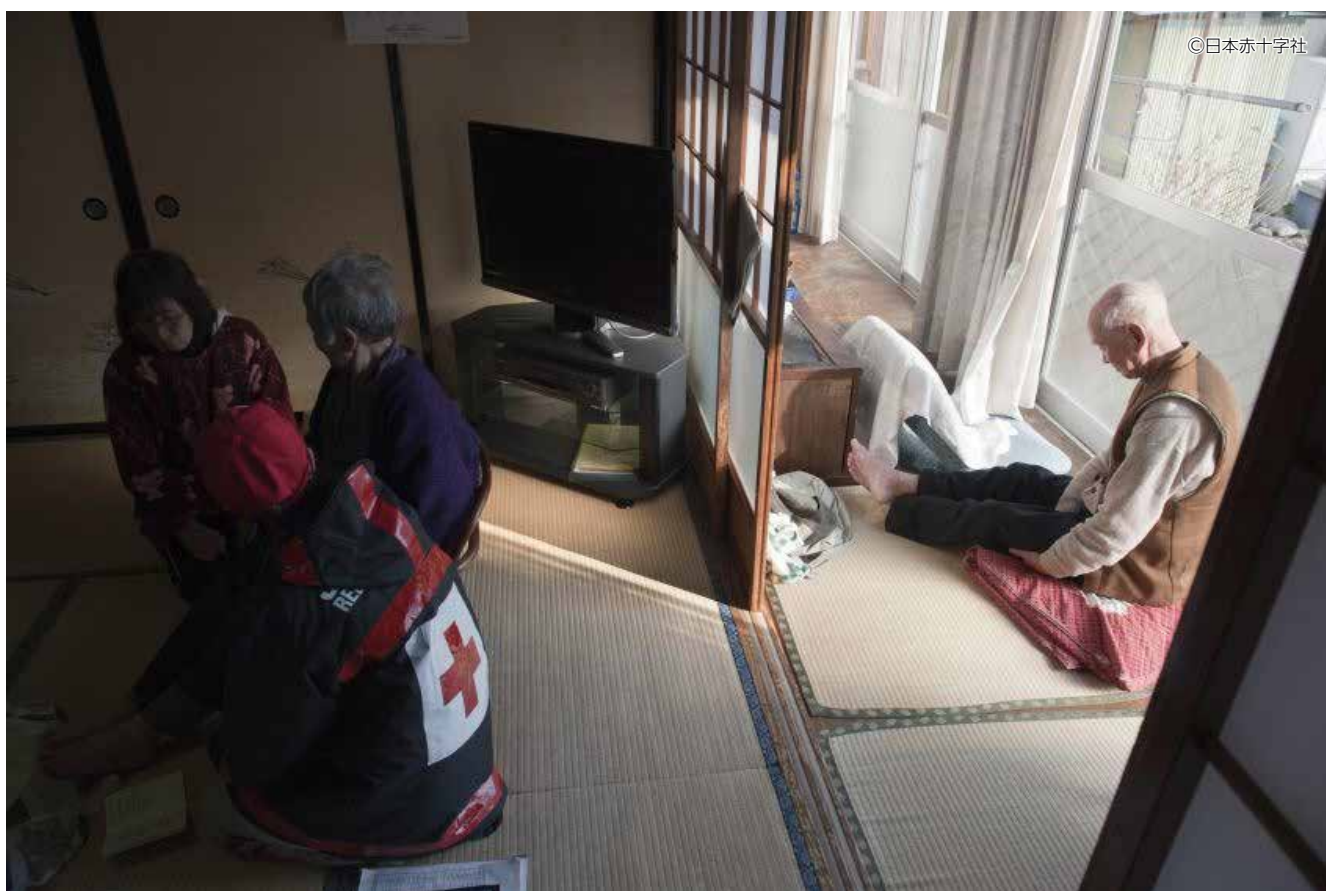
今、被災者の写真を見ることで、震災の状況を知る。その上で、震災を経験した被災者の立場を想像し、理解することで相手の苦痛を知り、相手の立場や思いやる心、人の役に立とうとする態度を養い、いのちの尊さ、かけがえのない自他を尊重する心を育む。

2. わらい

震災後の写真を見て、震災の状況を知ることによって、いのちを守り、いのちをつなぐとはどういうことかを考える。そして、助かったいのちに対しての感謝の気持ちがある一方で、自分が助かったことに対して素直に喜べない葛藤を感じ取る。被災者の立場を理解し、思いやる心、どうすれば役に立てるか考えさせ、内面的な成長を図る。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> 写真を読み解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真をじっくり見せる。
展開 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 写真から震災の事実を知る。 ①おじいさんは何をしているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 老人の思いを感じ取り、被災者としてどういう気持ちでいるかを想像する。 ②どんな気持ちだと思うか。 <ul style="list-style-type: none"> 被災者と周囲の人々の動きを想像する。 ③あなたは、おじいさんにどう接するか。 ④なんと声がけするか。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに入り込めるように問いかける。 周囲の様子を感じ取らせる。 自分の問題として受け止め、考えさせる。 自分にできることは何かを考えさせる
まとめ (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ▼本時のふりかえり。 自分のできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生きているからこそできることは何かを考える。



付属DVD収録メニュー・CD-R収録データ一覧

1. DVD (日本語字幕・副音声を選択できます) 時間

小学生用 (1-3年) 約41分	A-0	いのちをまもるぼうさい(イントロダクション)	約2分
	■いのちをまもる		
	A-1	さまざまなしぜんさいがい	約2分
	地震災害・津波災害	全て再生	約14分
	A-2	じしんをしろ	約3分
	A-3	じしんからみをまもろう	約6分
	A-4	きんきゅうじしんそくほうでみをまもろう	約2分
	A-5	つなみをしろ	約2分
	A-6	つなみからみをまもろう	約2分
	風水害(台風、豪雨、雷、竜巻)、雪害、火山災害	全て再生	約16分
	A-7	たいふう・ごうをしろ／たいふう・ごうからみをまもろう	約4分
	A-8	せきらんうんをしろ	約2分
	A-9	かみなりからみをまもろう	約2分
小学生用 (4-6年) 約99分	A-10	きょくちてきおおめからみをまもろう	約2分
	A-11	たつまきからみをまもろう	約3分
	A-12	おおゆきからみをまもろう	約3分
	A-13	かざんからみをまもろう	約3分
	■いのちをみつめる		
	B-2	さいがいのときのストレス	約3分
	■いのちをつなぐ		
	C-1	さいがいからみらいへ	約7分
	※A-14～A-18、B-1は、小学生用(1-3年)には収録されていません。 ※B-2の指導案はありません。		
	A-0	命を守る防災(イントロダクション)	約6分
	■いのちをまもる		
	A-1	様々な自然災害	約2分
	地震災害・津波災害	全て再生	約29分
小学生用 (4-6年) 約82分	A-2	地震をしろ	約7分
	A-3	地震から身を守ろう	約7分
	A-4	緊急地震速報を活用して身を守ろう	約3分
	A-5	津波をしろ	約4分
	A-6	津波から身を守ろう	約6分
	風水害(台風、豪雨、雷、竜巻)、雪害、火山災害	全て再生	約26分
	A-7	台風・豪雨をしろ／ 台風・豪雨から身を守ろう	約7分
	A-8	積乱雲をしろ	約2分
	A-9	雷をしろ／雷から身を守ろう	約4分
	A-10	局地的大雨をしろ／局地的大雨から身を守ろう	約3分
	A-11	竜巻をしろ／竜巻から身を守ろう	約3分
	■災害に備える	全て再生	約10分
	A-14	命を守るための備え(建物編)	約1分
	A-15	命を守るための備え(備蓄編)	約3分
	A-16	命を守るための備え(情報編)	約2分
	A-17	命を守るための備え(耐震基準編)	約2分
	A-18	命を守るための知識	約2分

小学生用 (4-6年) 約99分	A-12	大雪をしろ／大雪から身を守ろう	約5分
	A-13	火山をしろ／火山から身を守ろう	約5分
	■災害に備える	全て再生	約7分
	A-14	命を守るための備え(建物編)	約1分
	A-15	命を守るための備え(備蓄編)	約3分
	A-16	命を守るための備え(情報編)	約1分
	A-18	命を守るための知識	約2分
	■いのちをみつめる		
	B-2	災害時のストレス反応	約3分
	■いのちをつなぐ		
	C-1	災害の経験から未来へ	約13分
	※A-17、B-1は、小学生用(4-6年)には収録されていません。 ※B-2の指導案はありません。		
	A-0	命を守る防災(イントロダクション)	約6分
中学生用・高校生用 約99分	■いのちをまもる		
	A-1	様々な自然災害	約2分
	地震災害・津波災害	全て再生	約29分
	A-2	地震をしろ	約7分
	A-3	地震から身を守ろう	約8分
	A-4	緊急地震速報を活用して身を守ろう	約3分
	A-5	津波をしろ	約5分
	A-6	津波から身を守ろう	約6分
	風水害(台風、豪雨、雷、竜巻)、雪害、火山災害	全て再生	約27分
	A-7	台風・豪雨をしろ／ 台風・豪雨から身を守ろう	約7分
	A-8	積乱雲をしろ	約2分
	A-9	雷をしろ／雷から身を守ろう	約4分
	A-10	局地的大雨をしろ／局地的大雨から身を守ろう	約2分
	A-11	竜巻をしろ／竜巻から身を守ろう	約3分
	A-12	大雪をしろ／大雪から身を守ろう	約5分
	A-13	火山をしろ／火山から身を守ろう	約5分
	■災害に備える	全て再生	約10分
	A-14	命を守るための備え(建物編)	約1分
	A-15	命を守るための備え(備蓄編)	約3分
	A-16	命を守るための備え(情報編)	約2分
	A-17	命を守るための備え(耐震基準編)	約2分
	A-18	命を守るための知識	約2分

■いのちをみつめる

災害時の心理、災害時のストレス反応 全て再生 約 15 分

- B - 1 災害時の心理 (正常性バイアス／同調性バイアス) 約 8 分
- B - 2 災害時のストレス反応 約 7 分

■いのちをつなぐ

- C - 1 災害の経験から未来へ 約 13 分

※ B-1、B-2 の指導案はありません。

- これから防災を学ぶあなたへのメッセージ 約 1 分
- 災害時にリーダーが陥りやすいエキスパートエラー 約 5 分
- こころと体がリラックスする呼吸法 約 13 分

- 津波災害の映像 (岩手県宮古市 2011 年 3 月 11 日) 約 1 分
- 津波のシミュレーションCG映像 (三重県) 約 1 分
- 土石流の映像 (長野県木曽郡南木曽町 2014 年 7 月 9 日) 約 30 秒
- 火山噴火の映像 (御嶽山 2014 年 9 月 27 日) 約 1 分

※各分數表記はおよその目安です。

2. CD-R

○冊子全頁をPDFデータで収録

○冊子中の指導案・ワークシートは、小学生用 (1 - 3 年)、小学生用 (4 - 6 年)、中学生用・高校生用各種別を Word・一太郎データで収録

○「授業で使えるグループワーク素材」、「授業で使える作文素材」、「授業で使える写真素材」を Word・一太郎・PDF (一部) データで収録

- I - 1 あなたの大切なもの 小 (4 - 6 年) 中高
- I - 2 みんなでわけよう 中高
- I - 3 いのちを守るための気づき ※PPTデータあり 小中高
- I - 4 災害時シミュレーション ※PPTデータあり 小 (4 - 6 年) 中高
- I - 5 防災コミュニケーションワークショップ (BCW) 小 (4 - 6 年) 中高
- I - 6 自分だったらどうする 小 (4 - 6 年) 中高

- III - 1 安全に避難しよう 小
- III - 2 避難所でのストレスを考えてみよう 中高
- III - 3 ボランティアの心がまえ 中高
- III - 4 彼女について考えてみよう 中高
- III - 5 あなたができること 小中高
- III - 6 困っていることはなんだろう 小中高
- III - 7 未来をつくるために 中高
- III - 8 ストーリーを完成させよう 小中高

- II - 1 ありがとう 小
- II - 2 五へえさんへ 小
- II - 3 元気と笑顔／ぼくの夢 小中高
- II - 4 大震災とこれから 中高
- II - 5 あなたはそこにいなさい 中高
- II - 6 あなたはそこにいなさい 中高
- II - 7 小さくなった母 中高
- II - 8 あの日、そして今 中高
- II - 9 命、紙一重／しん災で学んだこと 小中高
- II - 10 助かった命 中高
- II - 11 過去の記憶 中高

○青少年赤十字防災教育プログラムリーフレット (PDF データ)

○参考資料

- 津波警報の警報サイレン音について (PDF データ)
- 消防サイレン 大津波警報 (音声ファイル)
- 消防サイレン 津波警報 (音声ファイル)
- 消防サイレン 津波注意報 (音声ファイル)

<バージョン情報 (推奨)>

Microsoft Word 2003 以上 ジャストシステム 一太郎 2014 以上 Adobe reader X 以上 Microsoft PowerPoint 2003 以上

※当教材は CD-R 上からの起動を前提としているため、ハードディスク等へ移動して起動した場合、環境によって正常に動作しなくなることがあります。

※DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したビデオです。DVD対応プレーヤーで再生してください。一部のDVDプレーヤー、DVD対応パソコンでは、正常に作動しない場合があります。

<指導案・ワークシート・CD－R>

提供・協力：

消防庁

沖縄県

伊勢市

高知市

静岡市

鳥取市

函館市

大槌町

いわき市立久之浜第一小学校

岩手県高等学校長協会

岩手県立岩泉高等学校

岩手県立大槌高等学校

岩手県立大船渡高等学校

大槌町教育委員会

大槌町立大槌中学校

釜石市立鶴住居小学校

気仙沼市立鹿折小学校

仙台白百合学園小学校

田野畑村立田野畑中学校

宮城県連合小学校教育研究会国語研究部会

山元町立山下第一小学校

イギリス赤十字社「Justice and Fairness」

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

朝日新聞社

高知空港ビル株式会社

株式会社チームビルディングジャパン

日本ヒューマンファクター研究所

Peter Skillman Design

ホテル函館ロイヤル

遠藤みなみ

今野佳奈

宮本佳蓮

森はなこ

山下美咲

< DVD >

協力：

東京消防庁

埼玉県

川崎市

高知市立潮江中学校

葛飾赤十字産院

広瀬弘忠 東京女子大学名誉教授 / 安全・安心研究センター長

藤森和美 武蔵野大学 教授

久能和夫 仙台大学 教授（元仙台市立榴岡小学校 校長）

丸山嘉一 日本赤十字社医療センター国内医療救護部 部長

映像提供：

NHK

資料提供：

朝日新聞社

読売新聞社

制作協力：

株式会社NHKプロモーション

機材協力：

キヤノン株式会社

提供：

淡路市

伊豆市

浦山文男

株式会社NTTドコモ

海上保安庁

鹿児島市

黒田晃敏

港湾空港技術研究所

国土交通省 中国地方整備局

国土交通省 中部地方整備局

国立歴史民俗博物館

静岡市

島原市

島原半島ジオパーク協議会

消防防災博物館

鈴木亨（岩手県大槌町消防団）

高村幸男

多田基太郎

多田浩章

秩父市

千葉県環境研究センター地質環境研究室

Twitter Japan 株式会社

電力中央研究所

東京都大島町

東京都三宅村

能代市立能代南中学校

東日本電信電話株式会社

人と防災未来センター

防災科学技術研究所 Eーディフェンス

防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター

三重県

宮古市

企画・制作
日本赤十字社

青少年赤十字防災教育プログラム検討委員会

千田亜希	盛岡市立緑が丘小学校	教諭
松本光司	いわき市立好間第一小学校	校長
山田不朽子	小山市立小山城南中学校	教諭
厚東政人	田布施町立田布施中学校	教頭
上村晴美	北海道大野農業高等学校	教諭
工藤世志乃	五所川原商業高等学校	教諭
シュルパ愛子	福島県立白河旭高等学校	教諭
佐藤知和	日本赤十字社	青少年係長

監修

渡邊正樹 東京学芸大学 教授
気象庁

協力

文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課

※組織名称・肩書きは初版時のものです

青少年赤十字防災教育プログラム

まもるいのち ひろめるぼうさい

平成 27 年 1 月 30 日 初版発行

令和 2 年 3 月 30 日 第 3 版 第 4 刷

発行元 日本赤十字社事業局

パートナーシップ推進部 ボランティア活動推進室

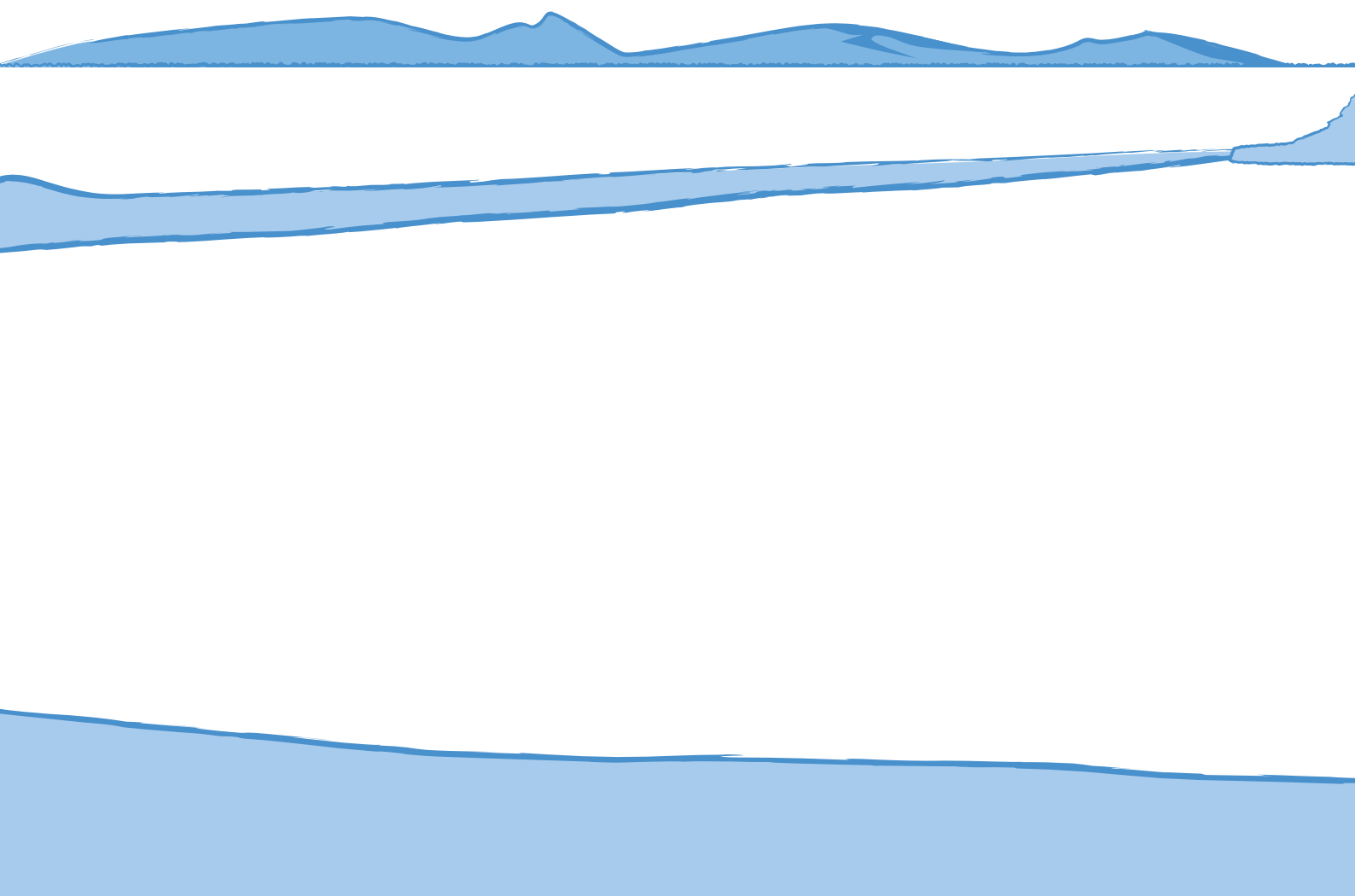
青少年・ボランティア課

住 所 〒 105-8521 東京都港区芝大門 1 丁目 1 番 3 号

電 話 03-3437-7083 (ダイヤルイン)

F A X 03-3432-5507

ホームページ <http://www.jrc.or.jp>



- 自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場の教員が提案する“授業ですぐ使える防災教材”をこの一冊に
- 児童・生徒が主体的に防災に取り組めるような「気づき、考え、実行する」を重視
- 「自然災害の正しい知識」「自ら考え、判断し、危険から身を守る行動」を災害毎に選択できる映像教材
- 「思いやり、優しさ、いのちの大切さ」「コミュニケーション力」「想像力」を育む教材・資料を収録

地震・津波・台風・豪雨・雷・竜巻・大雪・火山